

全船協

会報135号 2017年8月 夏季号



大島商船高等専門学校練習船「大島丸」

大島商船高等専門学校提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <http://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: sanyuksn@violin.ocn.ne.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 佐藤有造

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階

電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 葛西 弘樹

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
http://www.captain.or.jp

一般社団法人 海洋会

会長 山本 勝

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル6階)

電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 井手 祐之

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL http://www.marine-engineer.or.jp

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 工藤 泰三

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号
磯村ビル6階

電話 (03) 3502-2231
http://www.nikkaibo.or.jp
E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp

・海技教育支援事業 ・奨学金貸与事業
・帆船海王丸体験航海事業 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 武藤 光一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 URL http://www.macf.jp

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
年間購読料 本体価格(5,916円) + 税 送料別

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

海運業界出身の転職コンサルタントが対応!

海技者の転職

ならキャプタンへ

海運 キャプタン 検索



転職支援・人材採用のお問合せ (担当:佐々木)
電話 03-3497-9335 marine@mail.caplan.jp
キャプタン株式会社 東京都港区南青山3-1-31 NBF南青山ビル2階

平成19年第9回グリーン購入大賞優秀賞
平成21年第3回ものづくり日本大賞優秀賞
平成22年資源循環技術・システム表彰
平成23年第1回エコマークアワード奨励賞

広域認定事業所 株式会社おぎぞ

会長 佐藤 元洋

〒509-5401 岐阜県土岐市駄知町1468
電話 0572-59-8639 FAX 0572-59-4546

造船士官の経験を活かし、10年前産食器中のポリオサイトを資源化しエコマーク付きの給食用磁器食器を開発し全国展開。この実績を踏まえ、今年度新技術事業(経産省補助)で「PETボトルを自主回収しPET食器を製造販売する事業」で認定を受け事業展開に入る。ご支援をお願いします。

目 次

表紙	…大島商船高等専門学校練習船「大島丸」	
巻頭言	……………	理事 小木曾 順務… 2
平成28年度通常総会開催報告	……………	事務局… 3
平成28年度日本航海学会航海功労賞を受賞	……………	事務局… 21
函館湊物語パート2	…………… NPO函館写真の会	野戸 宗治… 22
やぶにらみ南半球世界一周クルーズ（前編）	…………… 元日本郵船機関長	吉野 克男… 25
函館商船学校に係った人々	…………… 北海道函館水産高校教諭	我妻 雅夫… 32
内航海運の概況について	……………	事務局… 37
海事ニュース	……………	39
海運・造船業界の求人動向（2017年7月末現在）	……………	（株）キャプラン… 41

北から南から

富山高等専門学校	……………	42
鳥羽商船高等専門学校	……………	45
広島商船高等専門学校	……………	49
大島商船高等専門学校	……………	52
弓削商船高等専門学校	……………	56
海技教育機構	……………	58
本部・支部だより	……………	事務局… 60
本部事務所移転のお知らせ	……………	事務局… 62
会費納入者御芳名	……………	事務局… 63
時事寸評… 表紙写真解説 …… 編集後記	……………	事務局… 64



「尚友に倣い、漂流ゴミを片付けよう」

理事 小木曾 順務

鳥羽商船 44E

明治維新のリーダーに大きな影響を与えた儒学者の佐藤一斎（昌平坂学問所儒官）は恵那市岩村町が故郷であり、私と同郷である。

そこは日本三大山城と国選定重要伝統的建造物群保存地区で清閑な地として休日には多くの都会人が心をいやすに訪れている。政治家や大企業のリーダーたちにも是非、訪ねて頂きたい街である。

戦後 70 年、日本は物質的に豊かにはなった。しかし、政界や財界でも不祥事が多発しており、いまこそ精神的な豊かさが求められる時代と言えよう。

1468 年本願寺中興の祖である蓮如上人が三河（愛知県）に本宗寺を建立、1603 年徳川幕府で松平家乗が岩村城主（恵那市）に、松平乗佑が西尾城主（西尾市）に、以来明治維新まで西尾藩と岩村藩は大給松平が世襲するが、この岩村町を上流とする矢作川を抱える土壌豊かな三河の地に浄土信仰が根付き土徳となって生きている。それが一斎にも継承され、また一方、工業立県愛知の基礎となりトヨタ自動車を生み国の財政をも支えている。

一斎は江戸後期教育者として幕末の志士たちの生き方に大きな影響を与えた。

その人脈の概要と今我々に求められる課題を以下に纏める。

江戸末期「師恩有益」を説いた吉田松陰の師が佐久間象山（長野市）、司馬遼太郎の「峠」の題材となった河井継之助（長岡市）を「理財論」で育てたのが山田方谷（高梁市）、また長岡市生まれの海軍大将山本五十六が学んだ小林虎三郎の「米百俵」の逸話は有名である。その師が佐久間象山ですべて一斎に繋がっている。

また江戸末期松平容保の命を受け会津から北見、京都、鹿児島までを行脚し晩年熊本五高に奉職した秋月悌次郎も昌平坂学問所卒である。

一斎は学問所で四書五経を基に全国に 3,000 人と伝わる弟子たちを指導しながら言志四録 1133 条を書き上げた。西郷隆盛もこの書から 101 ケ条を撰び、西郷南洲手抄言志録として人生の指針とした。

また西南の役で最後の斬首刑となった島義勇も一斎の薫陶を受け、その教えを生かし原野の札幌を道都に変え北海道開拓の基礎を築いた。

私は 40 年に及ぶ活学で、全国各地に土徳と語られる道心（良心）が存在し一斎の教えがこの平成の世に繋がっている事を体感した。

私は 1966 年鳥羽商船に学び船員教育を受け船員を志したが、1977 年一転し陶磁器業界に飛び込んだ。1987 年アルミナ（ Al_2O_3 ）を 30%含む強化磁器食器が学校給食向けに誕生、縁あって販売に携わり 1995 年全国行脚を開始、2005 年言志四録を携え秋田県行脚の折高校生（菩薩 5 人衆）との会話の中から Al_2O_3 の大切さ（売りっぱなしにしないで!!）を悟り義利両全で破損食器の全国回収を決断、ここが人生のターニングポイントとなり 2007 年ものづくり日本大賞を受賞、2013 年国の方針である広域認定（228 号）を取得した。

この体験から海国日本に今求められるのは漂着ゴミを資源に転換する道づくり、所謂尚友に倣い、異業種連携で漂着ゴミによるリサイクルの輪を協会が創り上げることである。

折も折、日本財団笹川陽平会長が 7 月 3 日の産経新聞正論欄で 50 万トンの漂流ゴミの改善に向け海洋環境の再構築の必要性を語られ、また今春弓削商船高専が海岸の漂着ゴミを島の宝にしたいと廃プラスチックをガス化する実証プロジェクトを立ち上げた。

正しく海に生きようとする男たちの、言志後録 24 条「真の功名は道德即ち是なり」の実践である。この弓削商船高専のプロジェクトを単に学校教育だけに留めるだけではなく協会が国と連携し海洋改善に寄与する循環型社会の教育事業に仕上げるのである。

今、私も協会に参加しているが、平成 27, 28 年国庫補助事業で廃 PET ボトルから PET 食器を創った。PET ボトルが食器に成る時代である。漂流ゴミを片付けるために燃料化を話題に固形燃料を使用する中部電力(株)、識者や自治体などをお訪ねしリサイクルの輪が構成できるか、この可能性を調査し必要性を再確認してきた。

事業推進にはまず会員各位の賛同を得、固形燃料化に向けては協会が、電力会社と港湾関係者を集め国と協議ができるまでのスキームを作ることである。

この課題について皆さんの声をお寄せ下さい。

平成29年度通常総会開催報告

事務局

6月7日本部会議室において本年度通常総会が開催され準備された議案はすべて承認されました。ここに議事録及び議案書を添えご報告申しあげます。

また、かねてより検討を重ねてきた本部事務所の移転についても出席会員全員の了承のうえ本年7月に移転することとなりました。

総会が無事終了し新年度の活動に着手できましたことに対し出席会員のご協力に感謝申しあげます。

○平成29年度通常総会議事録

1. 開催日時 平成29年6月7日(水) 14時00分～16時00分

2. 開催場所 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル 8階
一般社団法人 全日本船舶職員協会 会議室

3. 出席者 総正会員数の議決権の数 954名
定足数 477名
出席正会員数 385名

(内訳本人出席22名、委任状出席363名)

議決権のある出席正会員総数 506名

(書面表決121名を含む)

実出席理事 10名

実出席監事 2名

理事・監事以外の実出席者 10名

実出席者氏名

① 出席理事

赤嶺正治、岩田仁、及川武司、小木曾順務、柏木実、田島孝一、
松見準、矢野芳秀、望月正信、山田貢

② 出席監事

渡部英利、本望隆司

③ その他の正会員出席者

相川康明、飯島寿、沖川守、軽部欣四郎、川越義人、川島弘行、田中善治、埜智子、水野正治、三輪史郎

4. 議長の選出及び、議事録署名人の選任、定足数の報告

定刻 14 時司会者に任じられた専務理事及川武司氏が開会を宣し、続いて定款第 17 条に基づく議長の選出を諮ったところ、司会者一任の声を受け事務局より正会員飯島寿氏の推薦があり、他に立候補者がなく、飯島寿氏が議長に選出された。

飯島寿氏が議長席に着き挨拶の後、議長が議事録署名人を選任したい旨を述べたところ立候補者がなく、事務局より署名人候補として川越義人氏、小木曾順務氏 2 名が推薦され、選任された。

書記には田島孝一氏を任命した。その後、田島書記から本日の通常総会は定款第 18 条の定足数 477 名を満たしている旨の報告がなされ、議長は本総会が成立した旨を宣した。

5. 物故者への黙祷

及川専務理事より 12 名の物故者の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

6. 議事に先立ち、岩田会長から、現在協会が置かれている厳しい状況とそれを乗り越える策を本総会に付議しているので、ご審議を賜りたい旨挨拶があった。その後、議案審議に入った。

第 1 号議案 平成 28 年度 事業報告 (案) について

第 2 号議案 平成 28 年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明することを求め、専務理事及川武司氏から当期 (平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで) における事業・決算について次の書類をもって説明・報告がなされた。

- ①貸借対照表 ②正味財産増減計算書 ③事業別正味財産増減 (税込・累計) ④収支計算書 ⑤ 財産目録 ⑥財務諸表に対する注記

次いで監事渡部英利氏から、当該期における監査報告書が読み上げられ、当該書類が適法処理、記載され、理事の業務執行に関し不正、違反の事実がない旨報告がなされた。監査意見として「協会の存続危機に陥る恐れあり、収支改善に組織をあげて取り組むこと」と特別に指摘がなされた。

議長が賛否を議場に諮り、賛成多数で承認可決した。

但し、事業報告の[継続事業]の 3. 図書発行／講演会実施／会誌発行の口、講演会の開催手順に関しての意見があり、今後は事前に理事会に諮る等、内容の検討を充分行うこととした。

7. 報告事項

- ① 平成 29 年度事業計画 (案) 及び平成 29 年度予算 (案)

事業計画の 2 のロ. 内航船員研修制度については内航船員の支援に関し、多角的に検討する必要があるとの意見が出された。

② 本部事務所の賃貸借による活用について

本件は理事会にて承認を得ているが、重要案件として総会の場に付議すべきとの意見があり、定款第 14 条 (10) により総会権限として決議が行われ、賛成多数で承認された。

8. 閉会

以上をもって議案を終了し、赤嶺副会長より「日本人船員の激減で会員拡大に多くを望めない今、協会の存続に対しては協会独自の資産の有効活用、現会員数相応の体制作り、組織あげての取り組みといった改革が必要であり、今年度を改革の年にすべく会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」と閉会の挨拶が行われた後、議長は閉会を宣言し、16 時 00 分散会した。

上記の議事の経過及びその結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第 22 条議事録の定めに従い、議長、出席正会員 2 名及び代表理事がこれに記名押印する。

平成 29 年 6 月 7 日

議事録署名人 (議長)	飯島 寿 印
議事録署名人 (代表理事)	岩田 仁 印
議事録署名人 (正会員)	小木 曾 順 務 印
議事録署名人 (正会員)	川越 義 人 印

○総会資料

一号議案 平成 28 年度事業報告 (案)

[継続事業]

1. 海事に関する調査研究

イ. 船員資格制度の改正 (海技振興センターHTW 調査検討に関する専門委員会) HTW (人的因子・訓練及び当直) 小委員会の審議事項について海事局船員政策課、海技・振興課より説明を受け、各海事関係団体委員の質疑応答を含め、今後の取組等を検討した。

具体的には極海域で航行する船舶の船長及び航海士の訓練要件を追加するための STCW コードの改正案の採択と 2018 年 7 月 1 日発効、洋上産業人員の定義と暫定 MSC 決議の採択、STCW 条約マニラ改正の完全実施 (資格証明) について最大 6 ヶ月間 (2017/6/30 まで)PSC 等における欠陥指摘免除措置回章文書等であった。

ロ．船舶職員教育

IMOでの条約見直し等の検討内容及び改訂に伴う国内法への影響等に関する情報を会員、海事教育機関等へ提供した。

ハ．海洋資源・環境・省エネ

GHG 排出削減対策、燃料油硫黄分規制強化：2020年から世界の全海域にて燃料油中の硫黄分濃度を現行 3.5%から 0.5%以下に強化する（Sox 規制）等の決定項目について会員、海事教育機関等へ提供した。

2．商船教育支援・内航乗船研修

イ．商船教育支援

①海事人材育成プロジェクトへの参加と最終報告

運営委員会（及川理事）及び航海実習検討サブプロジェクト（赤嶺理事）並びに「新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システム」サブプロジェクト（及川理事）に参加し、学校及び他の連携機関委員と第3回高専・海事教育フォーラムを開催し、平成24年度から5年間の事業報告と成果、今後の本事業展開について発表した。

②（独法）海技教育機構に「全船協文庫」寄贈

（独法）海技教育機構練習船に図書を寄贈支援（10万円）、学生に有効活用された報告を受けた。

③練習船出航式参加

4・5月と12月の高専生遠洋航海出航式に出向き、会長の激励挨拶を行った。

④商船系高専卒業式へ出身理事の参列の上祝辞と優秀学生の表彰を実施した。富山（及川）、鳥羽（岩田）、大島（赤嶺）、弓削（柏木）広島（望月）が出席。

⑤漕艇大会支援 5商船系高専漕艇大会（弓削）にタオル300枚、20万円を支援した。

⑥5商船系高専商船学科合同進学ガイダンスを後援、開催地の中学生参加等に協力した。（6/18広島、7/18横浜、7/23神戸にて実施）

⑦5商船系高専商船学科振興協議会 11月18日開催した。

⑧5商船系高専同窓会長との懇談会 12月3日開催した。

⑨5商船系高専校長との懇談会 3月22日開催。（石原、新田、木村の3校長交代の挨拶）

⑩商船系高専評議委員会への参加 富山高専運営諮問会議（及川）、大島商船高専評議員会（赤嶺）。

ロ．内航乗船研修制度

商船系高専卒業者の就職状況も変わり本制度への応募者は無いが、内航船舶職員不足

は深刻化しており、本協会としては今後とも関係機関及び関係団体と連携して内航船舶職員の確保に対する支援事業を進める事にした。

3. 図書発行／講演会実施／会誌発行

イ. 会報の発行

会報 131 号（春季号）、132 号（夏季号）、133 号（新春号）を全会員に発送。

ロ. 講演会

平成 29 年 1 月 18 日 窪田哲夫氏の 佐藤一斎「言志四録」による日本精神 を日本教育会館にて開催した。

ハ. ホームページ

協会事業に対応したタイトルにして会員及び一般社会に最新情報を発信しており、特に求人、求職のお知らせに付いては接続回数が増加している。

4. 無料船員職業紹介事業

	航海士	機関士	合計
求人	内航 4、外航 0	内航 12、外航 1	17
求職	外航 1	0	1
成立	0	0	0

5. その他事業

イ. 収益事業等について企画財政委員会及び理事会にて検討を進めたが、整理すべき課題等に多少時間を要する。

ロ. VHF 資料の活用

VHF 資料内容の充実について関係団体との意見交換を含めて検討した。

ハ. 協会資料の電子化

電子化の方法等に時間を割かれ、実績を残すまでには至らなかった。

6. 会員獲得と会の活性化

イ. 商船学科卒業式を捉えて卒業生の入会促進を図るも、成果を得られなかった。反省を基に本協会の活動を通して学生及び保護者の理解を得る下記の取組を進めた。

1. 5 校 4 年生練習船実習の期間に訪船してキャリア教育に関する講演を実施した。
2. 商船学科 5 年生全員に会報「全船協」を無料配布すること。（134 号春季号より）
3. 会報「全船協」の記事に内航船社の紹介を掲載すること。（134 号春季号より）
更に 5 校校長との懇談会において、学校側の卒業生入会手続き協力を依頼し、全員の承諾を得た。

ロ. 入会者に対しては会員カード（退会時まで有効）を作成の上配付した。

ハ. 水産系高校生等の準会員入会と正会員の入会を機会あるごとに進めた。

二. 求人情報の関係で1名、正会員に加入した。

ホ. 会員間の交流促進 マリナーズイレブンゴルフ大会、といちゴルフ大会を開催した。
 へ. 企業世話人と情報交換の上、会員数の維持等の協力を依頼した。

ト. 会員数

会員 推移	内 訳	正 会 員				賛助会員		準会員
		本年度		前年度		個人	団体	本年度
平成 28 年 3 月 31 日		1145		1140		0	9	0
入会者	入会(新卒その他)	13	18	29				
	再入会	5		5	34			
退会者	会費未納資格喪失者退会者	8		18			1	
		16	24	10	28			
物故者		12	12	1	1			
平成 29 年 3 月 31 日		1127		1145		0	8	0

7. 管理部門の合理化と強化

イ. 本部事務局の活用方法を検討した。

ロ. 印刷費等経費の削減に努めた。

ハ. 資産の安全効果的な運用に努め収益を確保した。

二. 理事会 平成 28 年度第 1 回から第 3 回までの理事会及び 2 回の臨時理事会を実施。

ホ. 委員会活動

- ・企画財政委員会として、収益事業、寄付金取扱規程(案)、平成 29 年度事業計画(案)及び予算(案)等を検討した。

- ・広報・HP 委員会として会報記事のチェック及び HP の活用を検討した。

へ. 監査 会計・業務監査を実施した。

ト. 総会 平成 28 年度通常総会を実施した。

8. 海事団体への参画

イ. 役員・委員に就任している関連団体

(公財) 日本殉職船員顕彰会理事・監事 (公社) 日本海難防止協会理事

(公財) 海事教育財団理事・評議委員 海技振興センターHTW 調査検討委員会委員

同上 船員奨学生選考委員会委員 東京地方船員労働安全衛生協議会会長・事務局長

船員災害防止協会関東支部東京支部地区支部長 NPO 法人 SEILA 理事

(公財) 帆船日本丸記念財団評議委員 東京湾水先区水先人会業務運営協議会

ロ. 海事団体連携懇談会

(一社) 日本船舶機関士協会、(一社) 日本船長協会、(一社) 海洋会、

(一社) 全日本船舶職員協会

以上

平成28年度決算書(案)

貸借対照表			
平成29年 3月31日現在			
法人【新基準】	科 目	当年度	前年度
		(単位:円)	
		増	減
I	資産の部		
1.	流動資産		
	現金預金	4,699,845	2,662,568
	流動資産合計	4,699,845	2,662,568
2.	固定資産		
(1)	基本財産		
	定期預金	3,165,040	3,165,040
	基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159
	投資有価証券	217,692,800	217,692,800
	基本財産合計	223,923,999	223,923,999
(2)	特定資産		
	修繕積立預金	1,428,697	1,428,697
	事業運営安定化基金	0	1,000,000
	特定資産合計	1,428,697	2,428,697
(3)	その他固定資産		
	収益事業準備基金	26,366,441	29,829,841
	建物	33,381,474	34,216,010
	什器備品	3	3
	土地	61,976,936	61,976,936
	その他固定資産合計	121,724,854	125,822,790
	固定資産合計	347,077,550	352,175,486
	資産合計	351,777,395	354,838,054
II	負債の部		
1.	流動負債		
	預り金	60,138	68,418
	流動負債合計	60,138	68,418
2.	固定負債		
	退職給付引当金	1,700,000	1,339,200
	固定負債合計	1,700,000	1,339,200
	負債合計	1,760,138	1,407,618
III	正味財産の部		
1.	指定正味財産		
	指定正味財産合計	233,870,000	233,870,000
	(うち基本財産への充当額)	223,923,999	223,923,999
	(うち特定資産への充当額)	0	1,000,000
2.	一般正味財産		
	(うち特定資産への充当額)	116,147,257	119,560,436
	(うち特定資産への充当額)	1,428,697	1,428,697
	正味財産合計	350,017,257	353,430,436
	負債及び正味財産合計	351,777,395	354,838,054

正味財産増減計算書①

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

法人【新基準】

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	8,732,105	11,383,854	-2,651,749
基本財産受取利息	0	3,027,529	-3,027,529
基本財産受取配当金	8,732,105	8,356,325	375,780
特定資産運用益	50	41,285	-41,235
特定資産受取利息	50	41,285	-41,235
受取入金会金	16,000	69,000	-53,000
受取入金会費	16,000	69,000	-53,000
正会員受取会費	7,330,800	7,897,000	-566,200
賛助会員受取会費	6,566,200	6,727,000	-160,800
終身会員受取会費	400,000	400,000	0
事業収益	364,600	770,000	-405,400
会報広告収入	554,000	467,000	87,000
受取寄付金	554,000	467,000	87,000
受取寄付金	800	36,230	-35,430
受取寄付金	800	36,230	-35,430
雑収益	223,450	1,104,245	-880,795
受取利息	734	543,963	-543,229
有価証券運用益	202,500	418,500	-216,000
雑収益	20,216	141,782	-121,566
経常収益計	16,857,205	20,998,614	-4,141,409
(2) 経常費用			
事業費	10,335,857	15,384,391	-5,048,534
役員報酬	2,760,000	2,640,000	120,000
給料	2,726,550	3,916,972	-1,190,422
福利厚生費	332,217	481,271	-149,054
会議費	134,097	74,275	59,822
旅費	1,913,789	3,662,797	-1,749,008
通信費	790,091	560,600	237,403
消耗品費	0	13,201	-13,201
後援費	393,960	679,020	-285,060
印刷製本費	603,961	703,385	-99,424
新聞図書費	217,972	134,300	83,672
賃借料	0	199,800	-199,800
保険料	0	13,780	-13,780
諸謝金	36,000	39,770	-3,770
支払負債担当費	15,000	30,000	-15,000
支払広告費	366,380	143,200	223,180
委託費	0	2,017,290	-2,017,290
雑費	37,840	74,642	-36,802
管理費	11,768,827	13,227,723	-1,458,896
役員報酬	2,040,000	2,160,000	-120,000
退職給付費用	558,450	802,271	-243,821
福利厚生費	360,800	0	360,800
福利厚生費	18,537	176,238	-157,701
会議費	64,614	138,627	-74,013
旅費	737,125	730,061	7,064
通信費	308,654	375,918	-67,264
減価償却費	834,536	834,536	0
消耗什器備品費	0	913	-913
消耗什器備品費	291,161	92,998	198,163
印刷製本費	151,214	73,975	77,239
機器賃借料	706,874	668,278	38,596
新聞図書費	0	45,632	-45,632
新光水料	388,597	452,672	-64,075
共益費	1,883,760	1,916,406	-32,646
諸謝金	75,251	9,240	66,011
租税公課	31,600	237,710	-206,110
支払負債担当金	2,278,346	3,142,163	-863,817
支払広告費	95,000	70,000	25,000
支払委託費	0	279,720	-279,720
機器保守料	473,040	558,042	-85,002
雑費	7,700	196,639	-188,939
雑費	463,568	265,684	197,884

正味財産増減計算書②

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

法人【新基準】	(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減
経常費用計	22,104,684	28,612,114	-6,507,430
評価損益等調整前当期経常増減額	-5,247,479	-7,613,500	2,366,021
投資有価証券評価損益等	1,834,300	0	1,834,300
投資有価証券評価損益等	1,834,300	0	1,834,300
評価損益等計	1,834,300	0	1,834,300
当期経常増減額	-3,413,179	-7,613,500	4,200,321
Ⅱ 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
有価証券評価損	0	11,043,789	-11,043,789
有価証券評価損	0	11,043,789	-11,043,789
経常外費用計	0	11,043,789	-11,043,789
当期経常外増減額	0	-11,043,789	11,043,789
当期一般正味財産増減額	-3,413,179	-18,657,289	15,244,110
一般正味財産期首残高	119,560,436	138,217,725	-18,657,289
一般正味財産期末残高	116,147,257	119,560,436	-3,413,179
Ⅲ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	233,870,000	233,870,000	0
指定正味財産期末残高	233,870,000	233,870,000	0
Ⅳ 正味財産期末残高	350,017,257	353,430,436	-3,413,179

収支計算書

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

法人【新基準】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	8,000,000	8,732,105	-732,105
基本財産配当金収入	8,000,000	8,732,105	-732,105
特定資産運用収入	850,000	50	849,950
特定資産利息収入	850,000	50	849,950
入会金収入	100,000	16,000	84,000
入会金収入	100,000	16,000	84,000
会費収入	9,000,000	7,330,800	1,669,200
正会員会費収入	8,500,000	6,566,200	1,933,800
特別会員会費収入	500,000	0	500,000
賛助会員会費収入	0	400,000	-400,000
終身会員会費	0	364,600	-364,600
事業収入	400,000	554,000	-154,000
広告収入	400,000	554,000	-154,000
寄付金収入	0	800	-800
寄付金収入	0	800	-800
雑収入	1,000,000	223,450	776,550
受取利息収入	0	734	-734
有価証券運用収入	1,000,000	202,500	797,500
雑収入	0	20,216	-20,216
事業活動収入計	19,350,000	16,857,205	2,492,795
2. 事業活動支出			
事業費支出	13,947,000	10,335,857	3,611,143
役員報酬支出	2,730,000	2,760,000	-30,000
給料手当支出	3,900,000	2,726,550	1,173,450
福利厚生費支出	1,062,000	332,217	729,783
会議費支出	150,000	134,097	15,903
旅費交通費支出	2,500,000	1,913,789	586,211
通信運搬費支出	800,000	798,091	1,909
消耗品費支出	25,000	0	25,000
後援費支出	800,000	393,960	406,040
印刷製本費支出	850,000	603,961	246,039
新聞図書費	280,000	217,972	62,028
賃借料支出	400,000	0	400,000
諸謝金支出	100,000	36,000	64,000
負担金支出	0	15,000	-15,000
支払広告費	0	366,380	-366,380
委託費支出	250,000	0	250,000
雑支	100,000	37,840	62,160
管理費支出	10,853,800	10,573,491	280,309
役員報酬支出	2,530,000	2,040,000	490,000
給料手当支出	644,000	558,450	85,550
退職給付	310,800	0	310,800
福利厚生費支出	237,000	18,537	218,463
会議費支出	200,000	64,614	135,386
旅費交通費支出	600,000	737,125	-137,125
通信運搬費支出	60,000	308,654	-248,654
消耗品費支出	200,000	291,161	-91,161
印刷製本費支出	60,000	151,214	-91,214
機器賃借料支出	400,000	706,874	-306,874
光熱水料費	480,000	388,597	91,403
共益費支出	1,935,000	1,883,760	51,240
保険料支出	25,000	75,251	-50,251
諸謝金支出	500,000	31,600	468,400
租税公課	1,000,000	2,278,346	-1,278,346
負担金支出	150,000	95,000	55,000
支払広告費	170,000	0	170,000
委託費	300,000	473,040	-173,040
機器保守料	52,000	7,700	44,300
雑支	1,000,000	463,568	536,432
事業活動支出計	24,800,800	20,909,348	3,891,452
事業活動収支差額	-5,450,800	-4,052,143	-1,398,657

II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
有価証券売却収入	0	811,150	-811,150
特定資産取崩収入	1,000,000	1,000,565	-565
修繕積立資産取崩収入	0	565	-565
事業運営安定化基金	1,000,000	1,000,000	0
固定資産売却収入	0	7,286,565	-7,286,565
収益事業準備基金取崩収入	0	7,286,565	-7,286,565
投資有価証券売却収入	5,000,000	0	5,000,000
投資有価証券売却収入	5,000,000	0	5,000,000
投資活動収入計	6,000,000	9,098,280	-3,098,280
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	565	-565
積立預金支出	0	565	-565
固定資産取得支出	0	3,000,015	-3,000,015
収益事業準備基金取得支出	0	3,000,015	-3,000,015
投資活動支出計	0	3,000,580	-3,000,580
投資活動収支差額	6,000,000	6,097,700	-97,700
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	549,200	2,045,557	-1,496,357
前期繰越収支差額	3,825,300	2,594,150	1,231,150
次期繰越収支差額	4,374,500	4,639,707	-265,207

収支計算書に対する注記

			(単位：円)	
1. 資金の範囲	科 目	前期末残高	当期末残高	
資金の範囲には、現金預金及び預り金を含めている。	現金預金	2,662,568	4,699,845	
尚、前期末及び当期末残高は、右記に記載のとおりである				
2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳	合 計	2,662,568	4,699,845	
	預り金	68,418	60,138	
	合 計	68,418	60,138	
	次期繰越収支差額	2,594,150	4,639,707	

財産目録

平成29年 3月31日現在

法人【新基準】

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	金額
(流動資産)		
現金	手元保管	48,366
預金	普通みずほ銀行麹町支店	405,184
	普通みずほ銀行虎ノ門支店	2,769,268
	普通三菱東京UFJ銀行麹町中央支店	1,186,233
	普三井住友銀行	12,564
	郵便貯金本部	169,061
	郵便振替貯金	104,793
	郵便振替貯金特別	4,376
流動資産合計		4,699,845
(固定資産)		
基本財産		
定期預金	基本財産定期預金	3,165,040
	三菱東京UFJ銀行神保	3,165,040
郵便定期貯金	基本財産郵便貯金	3,066,159
郵便定額預金		3,000,000
	郵便貯金	66,159
投資有価証券		217,692,800
	三菱UFJエムカードPRD債	100,000,000
	みずほ証券PR債	97,000,000
	日本生命劣後債(US\$)	20,692,800
特定資産		
修繕積立預金		1,428,697
	三菱東京UFJ銀行普通	1,428,697
その他固定資産		
収益事業準備基金		26,366,441
	城南信用金庫九段支店	2,244,947
外国債	アイティン輸出銀行	18,307,494
	みずほFG 28500株	5,814,000
建物		33,381,474
本部		30,675,414
支部		2,706,060
什器備品		3
土地		61,976,936
本部		46,920,000
支部		15,056,936
固定資産合計		347,077,550
資産合計		351,777,395
(流動負債)		
預り金		60,138
流動負債合計		60,138
(固定負債)		
退職給付引当金		1,700,000
固定負債合計		1,700,000
負債合計		1,760,138
正味財産		350,017,257

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 改正平成21年10月16日内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

1. 満期保有目的の有価証券 償却原価法(定額法)によっている。
2. 満期保有目的以外の有価証券
期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

- 建 物……定額法によっている
什器備品……定率法によっている

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……期末退職給与の要支給額に相当する額を計上している

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	3,165,040			3,165,040
基本財産郵便貯金	66,159			66,159
基本財産定額貯金	3,000,000			3,000,000
投資有価証券	217,692,800			217,692,800
小 計	223,923,999	0	0	223,923,999
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697			1,428,697
事業安定化基金	1,000,000		1,000,000	0
小 計	2,428,697	0	1,000,000	1,428,697
合 計	226,352,696	0	1,000,000	225,352,696

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産定期預金	3,165,040	3,165,040		
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159		
投資有価証券	217,692,800	217,692,800		
小 計	223,923,999	223,923,999	0	0
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697		1,428,697	
事業安定化基金	0			
小 計	1,428,697	0	1,428,697	0
合 計	225,352,696	223,923,999	1,428,697	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	49,807,630	16,426,156	33,381,474
什器備品	429,450	429,447	3
合 計	50,237,080	16,855,603	33,381,477

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおり。

科 目	帳簿価額	時価	評価損益	参考評価情報
基本財産				%
みずほカード債(AUD)	97,000,000	76,339,000	-20,661,000	78.70%
三菱UFJ証券PRD債	100,000,000	81,404,000	-18,596,000	81.404%
日本生命劣後債USD	20,692,800	23,732,544	3,039,744	114.69%
合 計	217,692,800	181,475,544	-36,217,256	

平成 29 年 4 月 11 日

一般社団法人全日本船舶職員協会
会長 岩田 仁 様

監 事 渡部 英利
監 事 本望 隆司



監査報告書

私たち監事は、平成 29 年 4 月 11 日に本協会事務所において平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの平成 28 年度における会計及び業務並びに公益目的支出計画の実施状況について監査を行いました。その結果について次の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて計算書類及びその付属明細書の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書については、事業報告・計算書類及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて公益目的支出計画の実施状況の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告及びその付属明細書の内容は、事実であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正行為又は法令及び定款に違反する重大な事実はないものと認めます。
- (4) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。
- (5) 本協会の収入の状況を見ると、会員増加や収益事業の促進により確保することとなっている計画に対しかなり落ち込んでおり、このままでは協会の存続の危機となる恐れがあります。当面会員の増加（正会員及び賛助会員の増加）、収益増加施策並びに支出の削減等、組織を挙げて取組むことを強く指摘します。

以 上

報告事項-1

平成 29 年度事業計画（案）

はじめに

平成 29 年度の事業計画は、経費の節減、収益の確保に努め、公益目的支出計画事業を基本に会の活性化を図りながら次の事業等を実施する。

1. 公益目的事業（1,310 万円）

（1）海事に関する調査研究事業（継続事業①）（190 万円）

イ. 資格制度の改正

HTW 調査検討委員会に参加して、協会（全船協）の意見を反映させると共に、情報を収集し、海事技術者に情報を発信する。

ロ. 船舶職員教育

STCW 条約等の教育訓練に係る事項に、協会（全船協）の意見を反映させると共に、情報を収集し、教育機関と共有の上、船員教育に役立てる。

ハ. 資源・環境・省エネ等

海事技術者に関係する法令改正等の情報を収集すると共に、国交省、関連団体の具体的な取組等について調査し、ホームページ等で海事技術者等一般社会へ情報を発信する。

二. その他情報収集

海洋等に関連する最新情報を収集する。

（2）商船教育支援事業（継続事業②）（499 万円）

イ. 商船教育支援

- 1) 5 商船系高専商船学科学生へキャリア教育に関する講演会を開催する。
- 2) 海事人材育成プロジェクトによる「新たな教育システム」の導入等を支援する。
- 3) (独法) 海技教育機構練習船の「全船協文庫」へ新刊を寄贈する。(10 万円・12 月)
- 4) 7 月と 12 月の高専実習生遠洋航海出航式に参加する。
- 5) 5 商船系高専卒業式に参列して、祝辞を述べると共に優秀学生を表彰する。
- 6) 5 商船系高専合同進学ガイダンスの開催を（一社）日本船主協会、同窓会と連携して支援する。
- 7) 5 商船系高専商船学科振興協議会を開催する。(10 月～11 月頃に商船学科長と本協会理事が参加)
- 8) 5 商船系高専校長と懇談会を開催する。(2 月～3 月頃に本協会理事が参加)
- 9) 5 商船系高専同窓会長と商船教育に関する情報交換を目的に、必要に応じて商船学科振興協議会を開催する。
- 10) 学校諮問会議へ参加する。(富山高専運営諮問会議、大島商船高専評議員会)

ロ. 内航乗船研修制度

現況に合った仕組みを関係先と協議し、制度自体の見直しを進める。

(3) 図書・会誌の発行及び講演等の事業（継続事業③）（449万円）

- イ. 会報を年3回（5月、8月、1月）発行する。
 - ロ. 講演会（中学生、高校生、一般）を継続実施する。
 - ハ. 図書出版は必要に応じて作成する。
- 二. ホームページ(PC/スマホ対応)を活用して会員及び海事技術者等一般社会へ最新情報を提供する。

(4) 無料船員職業紹介事業（継続事業④）（172万円）

ホームページにて最新の求人・求職情報を海事技術者に提供すると共に、若年船員の転職相談等にも取り組む。

2. その他事業

- (1) 収益事業等の取組に関する総合的検討を企画財政委員会及び理事会にて進める。
- (2) VHF 英文例集資料の活用を検討する。（関連団体との連携）
- (3) 協会資料の電子化を進める。

3. 会務関係

(1) 会員獲得と会の活性化

- イ. 商船学科卒業生・在校生の入会促進を図る。
 - ・練習船実習の5校4年生を対象に就職先の選択に関するアドバイス及び協会の活動を説明した上、準会員への入会を促進する。
 - ・海技者の就職相談を通して入会を勧める。
 - ロ. 商船学科卒業生で海事関連事業に携わっている現役未加入者に入会を勧める。
 - ハ. 水産系高校、海上技術学校と就職状況等の情報交換を通して準会員・正会員への入会を取進める。
- 二. 船社（内外航船社）の求人情報等を会報に掲載して会員に提供し、実績を築きながら法人賛助会員への入会を取進める。
- ホ. 会員間の交流促進を図る。
 - ヘ. 企業内世話人との連携を強化する。

(2) 管理部門の合理化と強化

- イ. 本部及び支部の事務所の活用について検討する。
- ロ. 運用資産等の安全効果的な運用を図る。
- ハ. 委員会の活動
 - 企画財政委員会は本協会会務全般について検討する。
 - 広報・HP委員会はホームページ及び会誌を活用し、本協会の効果的PRを検討する。

(3) 海事団体への参画

イ. 役員・委員に就任している関連団体

- ・(公財) 海技教育財団理事・評議員・船員奨学生選考委員

- ・(公財) 日本殉職船員顕彰会理事・監事
- ・(公社) 日本海難防止協会理事
- ・(一財) 海技振興センターHTW 調査検討委員
- ・(公財) 帆船日本丸記念財団評議員
- ・東京地方船員労働安全衛生協議会会長・事務局長
- ・船員災害防止協会関東支部東京地区支部長
- ・東京湾水先区水先人会業務運営協議会
- ・NPO 法人 SAILA 理事

ロ. 海事団体連携懇談会

主要構成員

- (一社) 日本船舶機関士協会、(一社) 日本船長協会、(一社) 海洋会、
- (一社) 全日本船舶職員協会

以上

平成29年度予算(案) (収支計算書)

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで								2017/3/24
一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】		29年度予算案						
科 目	前年度	予算案	法人会計	海事調査事業	商船教育	誌図書発行	就職紹介	継続事業共通
I 事業活動収支の部								
1. 事業活動収入								
基本財産運用収	8,000,000	8,000,000	8,000,000					
基本財産配当収	8,000,000	8,000,000	8,000,000					
特定資産運用収	850,000							
特定資産利息収	850,000							
入会金収入	100,000	50,000	50,000					
入会金収入	100,000	50,000	50,000					
会費収入	9,000,000	7,400,000	7,400,000					
正会員会費収入	8,500,000	7,000,000	7,000,000					
賛助会員会費収	500,000	400,000	400,000					
事業収入	400,000	400,000				400,000		
広告収入	400,000	400,000				400,000		
雑収入	1,000,000	520,000	500,000					
受取利息収入								
有価証券運用収	1,000,000	500,000	500,000					
雑収入		20,000						
事業活動収入計	19,350,000	16,370,000	15,950,000			400,000		
2. 事業活動支出								
事業費支出	13,947,000	13,102,000		1,900,000	4,986,000	4,491,000	1,725,000	
役員報酬支出	2,730,000	2,730,000		710,000	855,000	710,000	655,000	
給料手当支出	3,900,000	3,900,000		774,000	1,180,000	1,270,000	676,000	
福利厚生費支出	1,062,000	1,062,000		211,000	321,000	346,000	184,000	
会議費支出	150,000	100,000			50,000		50,000	
旅費交通費支出	2,500,000	2,000,000		40,000	1,500,000	450,000	10,000	
通信運搬費支出	800,000	800,000				800,000		
消耗品費支出	25,000	10,000		5,000		5,000		
後援費支出	800,000	800,000			800,000			
印刷製本費支出	850,000	600,000				600,000		
新聞図書費	280,000	300,000		50,000	100,000	100,000	50,000	
広告費支出	400,000	400,000		100,000	200,000		100,000	
諸謝金支出	100,000	100,000				100,000		
委託費支出	250,000	200,000			100,000	100,000		
雑支	100,000	100,000		10,000	80,000	10,000		
管理費支出	10,853,800	10,387,000	10,387,000					
役員報酬支出	2,530,000	2,730,000	2,730,000					
給料手当支出	644,000	644,000	644,000					
福利厚生費支出	237,000	218,000	218,000					
退職慰労金支出	310,800	600,000	600,000					
会議費支出	200,000	100,000	100,000					
旅費交通費支出	600,000	500,000	500,000					
通信運搬費支出	60,000	300,000	300,000					
消耗什器備品費								
消耗品費支出	200,000	200,000	200,000					
印刷製本費支出	60,000	150,000	150,000					
機器賃借料支出	400,000	700,000	700,000					
光熱水料費支出	480,000	400,000	400,000					
共益費支出	1,935,000	1,935,000	1,935,000					
保険料支出	25,000	10,000	10,000					
諸謝金支出	500,000	50,000	50,000					
租税公課支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000					
負担金支出	150,000	100,000	100,000					
支払広告費	170,000							
委託費支出	300,000	300,000	300,000					
機器保守料支出	52,500	50,000	50,000					
雑支	1,000,000	400,000	400,000					
事業活動支出計	24,800,800	23,489,000	10,387,000	1,900,000	4,986,000	4,491,000	1,725,000	
事業活動収支差額	-5,450,800	-7,119,000	5,563,000	-1,900,000	-4,986,000	-4,091,000	-1,725,000	
II 投資活動収支の部								
1. 投資活動収入								
有価証券売却収								
有価証券売却収								
特定資産取崩し収入	1,000,000							
事業運営安定化基金	1,000,000							
投資有価証券売却収	5,000,000	5,000,000						
収益準備基金入	5,000,000	5,000,000						
特定資産取崩し収入								
事業運営安定化基金								
投資活動収入計	6,000,000	5,000,000						
2. 投資活動支出								
固定資産取得支								
収益準備基金出								
投資活動支出計								
投資活動収支差額	6,000,000	5,000,000						
III 財務活動収支の部								
1. 財務活動収入								
財務活動収入計								
2. 財務活動支出								
財務活動支出計								
財務活動収支差額								
当期収支差額	549,200	-2,119,000						
前期繰越収支差額	3,825,300	4,374,500						
次期繰越収支差額	4,374,500	2,255,500						

報告事項-2

本部事務所の賃貸借による活用について

- ①日本の発展に寄与する海運業界にあって、日本人船員の確保を重要課題とする本協会の活動を今後も継続する上で移転活用を進めたい。尚、移転先は千代田区内を考えている

平成28年度日本航海学会航海功労賞を受賞 海事三学会合同表彰賞式報告 事務局

高専商船学科と関連海事団体で取り組んできた「海事分野における人材育成システムの開発」で全船協も海事団体の一員として題記の航海功労賞を受賞した。

7月7日海運クラブで表彰式が行われ出席したので以下賞の概略を報告する。

1. 海事三学会合同表彰とは

(公社)日本マリンエンジニア学会、(公社)日本航海学会、(公社)日本船舶海洋工学会の三学会が前年度に実施あるいは製作させた海事に関する優秀な事業及び製品について学会ごとに選出し合同で表彰するものである。

2. 受賞対象事業

今年の各会からの受賞対象事業は次の通り。

○マリンエンジニアリング・オブ・ザ・イヤー2016 (マリンエンジニアリング学会)

受賞対象：コンテナパッケージ型ハイブリッドSO_xスクラバーシステム

受賞者：三菱重工株式会社
三菱化工機株式会社

○航海功労賞 (日本航海学会)

受賞対象：海事分野における高専・産業連携による人材育成システムの開発

受賞者：富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校、(一社)日本船主協会、(一社)全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会

○シップ・オブ・ザ・イヤー2016

(日本船舶海洋工業会)

受賞：シップ・オブ・ザ・イヤー2016
「DRIVE GREEN HIGHWAY」
川崎汽船(株)
ジャパンマリンユナイテッド(株)

技術特別賞：「TARANAKI SUN 他2隻」

(株)商船三井
南日本造船(株)
(一財)日本海事協会
三井造船(株)

部門賞

大型客船部門賞：「フェリーしまんと」
(独法)鉄道建設・運輸設備整備支援機構
オーシャントランス(株)
尾道造船(株)
佐伯重工(株)

小型客船部門賞：「ひめしま」

岡山県糸島市
(有)三愛船舶設計
(有)江藤造船所

大型貨物船部門賞：「NYK Blue Jay」

日本郵船(株)
ジャパンマリンユナイテッド(株)

小型貨物船部門賞：「勇青昇」

(有)三浦海運
(有)大川海運
日立建機(株)
(有)岡島造船所

漁船・作業船部門賞：「梅丸」

向島ドック(株)

特殊船部門賞：「AUGUST EXPLORER」

東洋建設(株)
サノヤス造船(株)



受賞式 岩田会長

函館港物語 パート2

NPO “箱館写真の会” 野戸 崇治

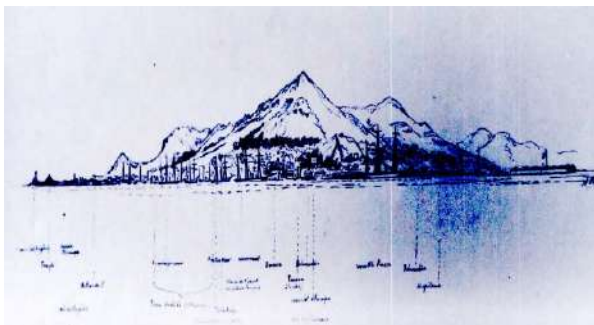
今回もフランスの軍艦から始まります。

3. 函館海戦の軍艦

2012年秋、明治時代の箱館戦争時に箱館港にやってきたヴェニユス号の乗員名簿を求めて、パリ郊外のヴァンセンヌの軍事博物館を訪問しました。十分な事前調査をしていなかったため、目的の名簿を探し当てることはできませんでしたが、ようやくのおもいで見つけた資料が100ftの長尺マイクロフィルム2巻、その中におもしろいものが写っているのを発見しました。

資料そのものは、ミネルヴァ号という軍艦が横浜から本国の海軍大臣にあてた報告書です。ほとんどが文書で簡単には読めませんが、その中に突如として数点のスケッチが現れました。それは、函館人であれば誰でもわかるほどはっきりとした函館の港と山のスケッチ、そして箱館港と五稜郭を含む平面図でした。

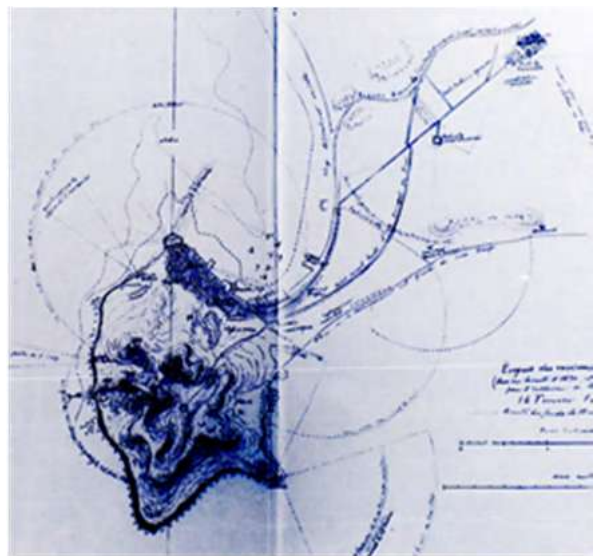
港内のスケッチには、イギリス・フランス・ロシア・アメリカなどの外国関係の建物と、ロシア艦のほか旧幕府側の軍艦、回天・蟠龍が積付きで書き込まれています。



函館港スケッチ明治2年：フランス軍事博物館マイクロフィルムより

平面図にも病院、税関などの主要な建物のほか、各国関係の領事館や教会などの建物も注釈付きでかなり正確な位置に描かれています。

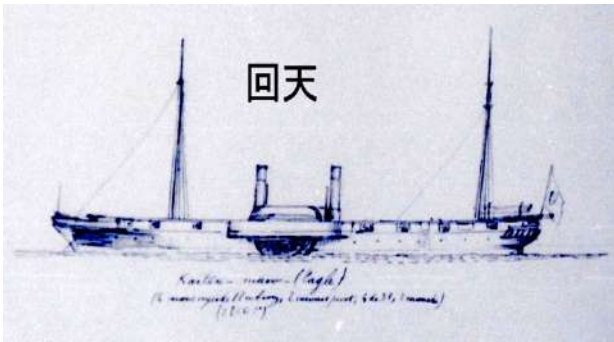
五稜郭がなぜか四稜郭に描かれています。五稜郭の後方に位置する四稜郭が築造されたのは、明治2年4月といわれていますが、このスケッチをしたフランス人は、その前の2月頃にすでに四稜郭築造の計画を聞いていたために、間違っって四稜郭と五稜郭を取り違えて描いてしまったのでしょうか。



五稜郭スケッチ

スケッチに描かれた軍艦は以下の五隻です。

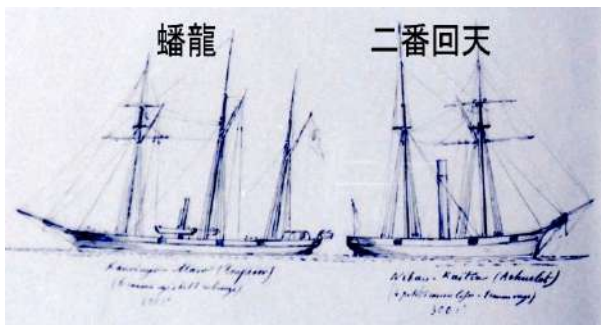
- (1) 回天：箱館海戦では最後まで新政府軍と戦った木造外輪の蒸気船。プロイセンのダンツイヒ造船所で最初に作られた軍艦で、厳選した材料で作られた。イギリスで改造され、その後に幕府が買い取った。箱館に来るまでの間に、暴風雨のためマストが折られ箱館では後部と修理した前部の2本マストだったというが、スケッチも2本マストで描かれていることから、確かに箱館でのスケッチとおもわれる。



スケッチ回天

(2) **蟠龍**：ビクトリア女王から将軍に贈呈された、もとイギリス王室の蒸気機関付きヨット。この船で徳川慶喜を駿府に送り届けた後、北へ向かった。箱館海戦では最後の一隻となるも、新政府軍艦朝陽を轟沈させた。しかし、弾薬が尽きたため浅瀬に座礁させ乗員は退避した。戦争後引き上げられて改修され、開拓史、日本海軍、捕鯨船と所属を変え明治 30 年まで使われた。「ばんりゅう」とよばれるが、私は「はんりょう」としている。

(3) **二番回天**：もとアメリカの蒸気船。明治元年旧幕府軍が箱館を占領した後、知らずに箱館に入港した秋田藩の高雄丸は拿捕された後、二番回天と改名された。宮古湾奇襲に失敗した後、逃げ切れず座礁させ乗員は陸上に脱出した。



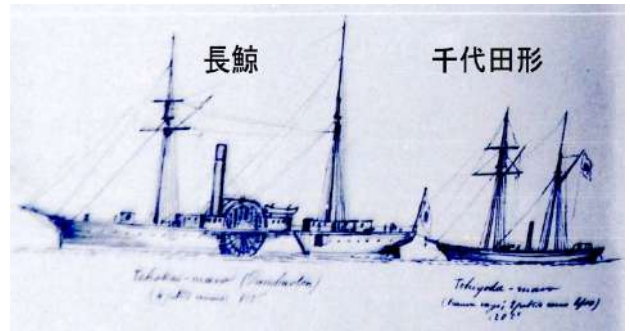
蟠龍と二番回天

(4) **長鯨**：イギリスで建造されたが、慶応 2 年幕府が購入し武装輸送船として使用した。明治 2 年箱館海戦で新政府軍に捕獲さる。

その後明治 13 年まで船として使用された

が、最後は浮き倉庫となった。

(5) **千代田形**：幕府が石川島造船所で建造した最初の国産軍艦。同型船の量産を計画していたので千代田形と呼ばれるが、この 1 艘で製造が終了した。箱館海戦では、決戦前に七重浜の浅瀬に座礁したため放棄して退船したが、翌日満潮で離礁漂流したものを新政府軍に拿捕された。榎本はこれを怒り、艦長を一兵卒に格下げした。副艦長は責任を感じ自害した。(写真 5)



長鯨と千代田型国産軍艦

品川から箱館に移動した軍艦は、このほかにもう 2 艘ありました。

開陽：幕府がオランダに発注した当時の最新鋭軍艦。旧幕府軍の旗艦として期待されたが、明治元年 1 1 月江差でタバ風(強い北西季節風)により、一度も戦うことなく座礁沈没した。榎本武揚ら 15 名が、発注とともに留学生として派遣され、日本への回航に同乗して帰国した。

神速：アメリカで建造された輸送船。引渡しは明治元年 2 月箱館でおこなわれた。開陽を救助しようと江差に到着した後、救出できず同じようにタバ風により座礁沈没した。

これらのスケッチの入った報告書の日付は 1869 (明治 2) 年 3 月 19 日となっています。

当時の和暦だと 2 月となりますが、前年の和暦 11 月に開陽が沈没していることから、12 月に箱館に入港し 2 月にデュプレクス号と交代し

て横浜に戻ったヴェニウス号の乗員は、箱館で開陽の船影を見ることはできません。そしてこのヴェニウス号の乗員の誰かが函館でスケッチを描き、その後横浜から、ミネルバ号からの報告として本国に送ったということかもしれません。

そして、榎本軍に加わった二人の若いフランス人ニコルとコラッシュは実は、ミネルヴァ号の見習士官だったのですが、横浜で報告を聞いてから箱館行きを決心・決行したのかもしれない。

函館市中央図書館に、函館港を撮影した古パノラマ写真があります。



函館港パノラマ写真：明治2年
函館市中央図書館蔵

港内に船が異様に少ないことから、明治2年の箱館海戦直前の写真ではないかといわれていました。そして港内に見える3艘は、回天、蟠龍千代田形であるとも。数年前函館市立博物館で、このパノラマ写真を含めた多数の幕末・明治期の写真を展示するという企画展がありました。その後私の属する NPO「箱館写真」の会が、函館市内でこの写真を含む写真展を開催し、北海道新聞にこのことを記事にいただきました。

そうしたところ記事の WEB 版を見た方から、故郷鹿児島にも同じ写真があると知らせがありました。見比べると同じ写真です。そして鹿児島には「明治2年」という書付も一緒にありましたので、これから撮影時期は明治2年でほ

ぼ間違いないだろうとおもわれます。

回天の残骸を撮影した写真が、函館市中央図書館に一枚保存されています。明治の函館の写真師紺野松次郎が、根室で見つけた写真を複写したものであることが裏書されています。原版の撮影時期は不明ですが、回天の残骸との裏書がしてあります。



函館市中央図書館蔵：回天

そして、明治6年に開催されたウイーン万国博覧会の出展図録にも回天の写真がありました。

こちらは撮影時期が明治5年とはっきりしています。こちらの撮影時期のほうが後のように思えます。



ウイーン万国博覧会の出展図録の回天

函館ではないところに保存されていた資料によって函館港の物語がいろいろわかりました。

やぶにらみ南半球世界一周クルーズ（前編）

元日本郵船 機関長 吉野克男

元日本郵船機関長の吉野克男さんより、ピースボート世界一周クルーズによる航海記が届きました。今号と次号の二回に分けて掲載します。（事務局）

この一周クルーズの105日間のうち30日は、各港にて観光をおこなうことになる、観光する日以外の日（約2ヵ月半）は各大洋での航行となる。通常のクルーズとは一味、違うものであった。



インド洋までの道（赤と緑○印が本船航跡）

○インド洋までの道

日本の古代海上交通は、日本海、渤海、東シナ海及び、南シナ海などで行われた。まず、中国から日本へ（紀元前219年）の徐福一行が日本へ、次に日本の遣隋使（6回 600～618年間）・遣唐使（20回 630～894年間）ならびに渤海国の使節（34回 728～922年間）の交流などがあり時代が下れば、元の襲来（1274年・1281年）など倭寇の侵略の前期（1220～1387年）～後期（1540～1588年）があり、また15世紀初頭（1405～1433年）には中国の南京から鄭和の航海が始まり、巨大な宝船船隊でもって沿岸諸国の国々交流をこれらの海域で行われ最後にはインド洋のアフリカ東岸にまでいたっていた。この後ポルトガルのガマが「嵐の岬」を1497年に苦勞してインド洋に辿り着き、マリンデーの港でインドへの水先人を得てインドのカリカットに到達したのは（1498年）のことであった。

インド洋の規模は、（面積 7,355 km² 最深部 7725m）なので大西洋や太平洋に比べて小さいものですが、以前は、日本籍船が多く行き交うところで、ペルシャ湾に向かう石油運搬船（オイルタンカー）ならびにスエズ運河を通過して欧州ならびに黒海航路に向かう定期船を多く見かけたものであった。

さて、ピース・ボートの「オーシャン・ドリーム号」は2015年の12月17日に横浜の港を出港して日本領土の南端に位置する沖縄の那覇へと船の進路の南下を進める。

○沖縄、那覇寄港 12月20日

琉球王国は1428年から1879年までは、日本・朝鮮・東南アジア諸国との貿易で繁栄していた。首里城は1709年に失火で全焼してしまった、けれども1715年には、その再建が完了した。ペリー提督が、日本に開国を迫る前、1853年に沖縄に立ち寄っている。1879年には明治政府により沖縄県が誕生。

太平洋戦争中の沖縄では、軍人ばかりではなく、民間人も多数の犠牲者をだし、これらの人々の氏名が刻まれている碑が残されている。この大戦でも首里城は壊滅してしまった。

1958年、守礼の門が復元され、1972年に日本本土に復帰したけれども、米軍の基地を抱える沖縄は多難な道が続く、首里城公園が一部公開されたのは、1992年のことである。2000年12月には世界遺産に認定されたものである。

私は、沖縄が返還される前に一度、沖縄を訪ねたときは、悲惨な戦争の面影が強く残っていた。「平和の礎」が胸に強くこたえた。



世界遺産に認定碑

今度のピース・ボートのツアーは多彩で、(A)から(F)までであるうちの(A)「琉球世界遺産めぐり」に参加して首里城公園、園比屋武御嶽石門(そのひゃんうたきいしもん)、識名園、斎場御嶽(せーふあうたき)、那覇の国際通りと牧志公設市場などを散策。



牧志公設市場

今回の市内観光で気付いたことは、女性ガイドさんが巧みに沖縄弁をまじえて現在の沖縄を紹介しているのに感心したことである。バスの車窓から見る白い民家のづくりが頑丈であり。屋根の上に給水タンクが備えられているのに感心して、

ガイドさんに尋ねると毎年のように台風があり、用心をしているとの返事であった。

○厦門・中国寄港 12月22日

太平洋戦争の終結後も、インドシナ戦争(1946年～1954年)、朝鮮戦争(1950年～1953年)、泥沼のベトナム戦争(1961年～1975年)などで戦火のくすぶりが絶えない時に1958年8月23日、中国人民解放軍と国民党とのあいだで、砲撃戦が、厦門と金門の国民党にはじまる。

この砲撃戦で弾が日本籍の船にマストに当たったこともある。幸いに乗組員には被害が及ばなかった事件を思い出されるところでもある。

厦門と呼ばれている福建省の島と台湾の金門島とは大砲の弾の攻撃が可能な距離である。厦門は昔から小さい村であったが、お茶の産地が近くにあることに加えて港として交易が盛んであった。

前期倭寇(Japanese pirates)に対抗する防衛するために明朝は海禁令出した。厦門は城塞(1387年)で囲み、その城塞の海に面する下門に対する言葉であった。しかし品がよくないとして厦門としたらしい。また一方で「Amoy」シヤメンは福建方言で一般的も話されている。

○ベトナム

チャパ王朝192年 Indrapura が成立、1802年阮朝のもとで統一したが、1852年 フランス軍の侵入、20年後、1887年10月にフランス保護領に、1954年、ベトナム民主共和国が独立を宣言したためにフランスとのインドシナ戦争が勃発、1954年ジュネーブ協定で南北に北緯17度を境に南北に2分割され1955年 アメリカ支援による

南部にベトナム共和国に 1961 年アメリカの軍事介入で戦争の泥沼化になったが 1976 年南北の統一になる。

この戦争のためにベトナム国を離れる目的での多くのボート・ピープルが南シナ海に漂ったために、この海域を航行する時には船内では緊張した見張りを実施した経験がある。

ベトナム語は難解な言葉である。特に発音が難解であると感じた。

ホイアン（旧日本人街、福健会館、市場、場、ベトナム民族衣装のアオザイ市場など見学）江戸時代初期に朱印船貿易（1592～1635 年）栄えたホイアンの街があり、日本人がかけた、いわゆる橋には屋根があり橋の両端に、狛犬が鎮座しており一方に日本人町の方、反対側には中国人町の方にいるのかも知れない。なぜか狛犬には赤布と小銭が供えられている。

福建会館では朱印船の往来が賑やかな頃に多く渡来船があり、その模型が飾ってあった。

ベトナムはアオザイが有名であるが、市場で孫娘のために買い求めた。寸法は孫娘と同じくらいの女性を探して取らせていただく。本船が、シンガポールに寄港したときに受け取れることになっていた。

ベトナムでは、「クリスマス・イブ」のお祝いをする。船内でもクリスマスの衣装を着たサンタで賑やか雰囲気になる。



クリスマスの衣装を着た若いサンタさん

○シンガポール寄港 12 月 29 日

私の船乗り時代には、船で幾度ともなくシンガポール港を横目に見て通過したこともあり、寄港したこともあったが、それから 30 年以上も時を重ねた今回は、まず港の付近に瀟洒な高層ホテルや異常に高い観覧車が目に入ってきた。以前の雑然とした港町に威厳のあったラッフルズ・ホテルも見られないが、シーライオンから噴き出す水は健在である。太平洋戦争時代では「昭南島」と呼ばれて、南方の資源を日本に運ぶ拠点にもなったこともあった。戦後は、リー・カン・ユウの指導の下素晴らしい復興を成し遂げた都市国家でもあった。

海上コンテナなどに携わった者としての驚きは、1900 年中央、一時コンテナ取扱量が年間 1,000 万 TEU 超え世界一になり、香港と競争していたこともあったが、その後 2005 年頃には年間コンテナの取扱量は TEU (20 フィート換算) で 2,300 万個になり、現在では香港に代わって中国の港、「上海」に世界一の地位を譲っているようである。中国本土では海上コンテナ箱の生産も世界一もあった。

今回のツアーでは、海辺を埋め立てて拡張した特異で豪華なホテルや巨大な観覧車の観光を主体に観光する市内ツアー・を選択する。

観光の当日は、あいにく雨気味のシンガポールの朝になったが最初にマー・ライオン公園でマー・ライオンを見る。水を吹く白いライオンがこんなにも大きなものであったとは思ひもしなかった。



水を吹く白いライオン（マーライオン）

マリナ・ベイ・サンズ・スカイパーク（Marina Bay Sands Sky Park）とは、総合リゾートホテル・ホテル屋上の展望台・大観覧車などを含む一帯。その三本足は、すべてホテルの部屋であり、屋上には展望台とプールがありシンガポールの高層ビル群も見ることができる。近くの巨大な観覧車（Singapore Flyer）では一つの箱に約 20 名が乗れるほどの広さで、シンガポールの市街が遠くまで見渡せる。この観覧車から見える港には現在も 100 隻を超える船舶が錨泊しているが、シンガポールの港は、船舶への燃料（バンカー）補給基地であることでは世界一であることを思い知らされる。

インド洋に向かうためには、マラッカ海峡 全長 104k m 幅 6k m を通過しなければならない。ここは難所が数多くあり、しかも以前には海賊による襲撃が多かった。

私も船乗りであったころ、在来船でこの海峡を通過するときには緊張したものであった。

10m 以下の水深になると機関室でも船の振動が変化し、主機の回転数も微妙に針が振れ、喫水の状態では船体全体が波打つことも経験したものだ。それで以前は難破した船をよく見かけたものである。しかしながら関係諸国の努力と援助のおかげで暗礁の位置や航海方法を改善して船の航行安全が保全されている。

ピース・ボートで「船内の紅白歌合戦」など船内の企画が続きます。「新年のカウントダウン」はマラッカ海峡を過ぎて西に進路を取った付近になる予定である。

インド洋の規模は、（面積 7,355 km² 最深部 7725m）大西洋や太平洋に比べて一番小さいものであるが、以前は、日本に向かう石油運搬船（オイルタンカー）ならびにスエズ運河を通過して欧州ならびに黒海航路に向かう定期船を多く見かけたものであった。スリランカの南端をかすめるとすぐにモルディブである。

○マレ・モルディブ共和国寄港

1月5日～6日

もともと、モルディブ共和国はスリランカの属領であったが、1965年に完全独立したものである。スリランカ（セイロン）の南北 860 km、東西 118 km にわたり首飾りのように 1048 の環礁からなっている共和国である。マレーはその首都でもあり地球の温暖化で海水面の上昇を危惧している国でもある。

1月4日 マレー市内を観光 マレーウォーキングツアーでは、マレー首都中部の共和国広場、

市民の市場、魚市場、国立博物館などで市内にはモスクの数が 22 と多いのが目につく、また思ったより海水が澄んでいた。マレーにもコンテナ・ヤードが狭いながらも存在していた。

○1月5日、潜水艇による海潜底探検

二日目の潜水艇による観光では、まず驚いたのは艇長がインド人女性であったことである。水深は 30m 前後であり、艇内は広く窓の大きさも広い。最初はサンゴ礁などの鑑賞であるけれども、やや海水が汚れていた。「魚がないぞ」と大声で乗客が叫ぶと魚が次第に集まってくる。大きな窓いっぱい魚が集まってきた。魚に日本語がわかるのかと思っていると最後には潜水服を着た人が窓いっぱいに現れて V サイン。

○赤道通過の赤道祭り 1月6日 インド洋上

ピース・ボートでも赤道祭りが行われた。この赤道まつり (Neptune Baptism) は、帆船時代の良き風待ちを海の神に祈願することから始まったのであろう。

それが赤道付近の風向を攪むのに、赤道を初めて超える水夫たちが水や海水で洗礼を行ない、海のネプチューン大きな鍵をさずかるようになり、儀式化したものと考えられる。現在では長い旅の船内レクリエーションとして客船などでは行われている。米国海軍では新兵のしごきにも利用していた。

第 90 回の南半球一周クルーズには総勢 880 名余の乗客があり、集合写真をボートデッキのプール・サイド撮影することになった。私は写真の中央部で大きな口を開けて何かを叫んでいる。これ

がインフルエンザの一因か？

今航海の乗船客を年齢別に分けると 0～50 歳 25%、60～69 歳 42%、70 歳以上は 33% になり、ほとんどの人が日本人であり、外国籍パスポート保持者は、70 名程度であった。



赤道祭記念集合写真

○インフルエンザ感染、船内隔離

1月7日 ～12日

赤道祭りの次の日から体の調子が悪くなる、体温 38.5 度以上にあがり、意識も朦朧となる。

マレー人医師と日本人看護婦の診立てでインフルエンザの疑いで隔離を指示される。船内にある隔離病室ではなく一人部屋での養生であった。

* 隔離期間中の食事はボーイが配膳してくれるが食欲がわかない。

* 日本人看護婦の回診が毎日あるけれども、マレーシア人医師の回診はあまりない。

* 自室での隔離であるために楽しみは、船内 T.V.

と友達からの電話のみ。

○モーリシャス共和国 ポートルイス入港

- * 1月10日 寄港したけども隔離のために上陸不可となる。
- * 乗客が観光に出かけた後の船内は異常なぐらい静かで船内警備員のトランシーバーの声のみ。
- * JAMST EC（海洋研究開発機構）の船が見えるのみ、鋭い山が見え山肌には短い灌木。

○レユニオン島・フランス海外県 1月11日

- * 寄港したけれども 隔離のために上陸不可。
- * やや大きなコンテナ・ヤードに5基のガントリークレーン、コンテナの並び方にもフランスの文化の影響か？
- * 船内で読み回された日本の新聞を読む。
- * 優雅な山脈と白い小さい家。
- * 2010年に世界遺産に登録される ユニオン島の尖峰、円谷、自然の城壁

○ マダガスカル共和国 マダガスカル入港

1月14日～1月15日

- * 隔離のために上陸不可
- * 丸い徳利の上に花を生けたような奇妙な木「バオバブ」を見たいと思っていたが不可能になった。「バオバブ」には9種類が存在し、そのうち6種類がマダガスカル原産である。木の高さは、5～30m、幹の直径は15.9m、幹周囲は47mでバオバブの推定年齢は、1275年というものもある。さらに驚くことはその幹の中に水を蓄えていることで荒涼とした自然環境に適応しているそうだ。その水の量は、120,000リットルになる幹も

あるそうだ。



マダガスカル原産「バオバブ」

○ モザンビーク共和国・マプト入港

1月18日

インフルエンザの為に隔離を指示されたために事前に申し出たアフリカ大陸までのツアーは、すべてキャンセルするしか方法がなかった。

それで、本船乗客が朝早くから、本船のところに集合している観光バスに乗り込んでいるのを眺めていると、近くには鉄道の駅があり、その正面に誰かの銅像が立っていた。ガマの銅像か？尋ねると「そうだ」と土地の人が答える。急に上陸したくなった。隔離も12日目で体調も良くなっている所以市内の観光ぐらいはできそうだと判断して自主ツアーに参加することにした。自主ツアーとはグループに個人参加で、ピース・ボートの企画されたツアーではなく、今回は男性3名、女性4名ほどのグループであった。このウォーキング・ツアーが、私自身にとって、後で大変なことになるとは考えもしなかった。

マプトは、ポルトガル語が公用語でモザンビークの首都でもある。まずは中央駅に歩いて行き、駅の前にガマの像に挨拶をする。それから中央広場、ローマカトリック聖堂と歩き民芸品市場で女

性陣の買い物にも付き合う。坂が多くしかも歩道の石畳があちこちはがれているのを注意しながらのウォーキングするには息が切れ、だんだんとグループに置いて行かれる。まだインフルエンザの隔離による運動不足による足腰の衰えが残っているようだ。

昼飯ランチを取るころには身体ともに限界だと気付いたので、一人で帰船することにした。

現地通貨メテイカルにはピース・ボートの船内で20USドルを換金はしていた。一人歩きは治安上しないで下さいといわれていたので、近くの瀟洒なホテルでUSドル追加の交換と、タクシーの手配を英語で依頼するとホテルの従業員が快く引き受けてくれ、これからどこに行きたいのですか？ 尋ねられた時、はたと困ったことになったと気が付いた。ピース・ボートの船名「オーシャン・ドリーム号」を告げてもわからない。

急に思い立ちグループに参加したために本船が接岸していた岸壁や港の道路の名前がわからない。とにもかくにもタクシーを走らせる。

大きな船であるので煙突ぐらいは見えるだろうと「ビッグ・シップ」「ビッグ・シップ」と叫ぶことしかできない。突然、倉庫の屋根越しに特徴のあるファンネルの本船が見えた。

ゲートの係員に「passenger identification card」を見せると簡単に入れ、と合図をされる。オーシャン・ドリーム号の入口では、船内警備員に帰船したことをコンピューターに入力してから自室キャビンに入る。大変な一日になった。

Vasco da Gama (1460・1469～1524) の船隊もモザンビークの近くにある島にサン・ガブリ

エル、サン・ラファエル、ベリオならびに補給船の4隻はたどりつき1498年3月2日から29日間錨泊、東アフリカ沿岸を支配しているアラブ商人が、インド洋を航海するには必須であることがわかり、モスリムに変装して、モザンビークのサルタンとの謁見をすることができたが、しかしサルタンへの贈り物が見劣りするものであった。そのためにアラブ商人たちの反感をかい、船に逃げ帰ることになり。それで腹いせに市内に向けて砲撃を行った。

ガマ船隊は次にアフリカで現在の「モンバサ」に4月7日から13日まで滞在したがここでも人々の反感を受けて早々に立ち去ることになった。原因は無防備なアラブの商船を攻撃し、略奪などの海賊行為をしたためである。

ガマ一行は、北に進路を取り、4月14日には「マリンデイ」にてモンバサと対峙していた友好的なリーダーに遭遇し、インド洋わたりインドの南西部からきた商人の季節風(夏は南西から、冬は北東から吹く)を知るインド商人を初めて知り、航路の案内契約をした。

ガマは、マリンデイを1498年4月24日に出帆しインドに向かう、5月20日1498年、インド大陸の西南部 Calicut の近くの Kappadu に到着した。この事柄により東洋と西洋が繋がった。

今までの陸上の砂漠の交通がシルクロードのみで東洋と西洋が結ばれて、砂漠の民アラブの独占的なものであったものが海上でヨーロッパと東洋が結ばれることとなった。

次号につづく

函館商船学校に関わった人々

北海道函館水産高等学校教諭 我妻雅夫

1 はじめに

この度も執筆の機会を頂戴してありがとうございます。

今回は、函館商船学校に関わった人々について記します。この人たちがどのような気持ちで、どう関わったかのを知ると、函館商船学校が当時どのような存在だったかがわかります。

私が勤務する函館水産高校は、既にご承知のとおり函館商船学校の敷地、校舎、施設・設備、一部の生徒・教員を引き継いで、昭和10年4月1日に開校しました。函館商船学校は、函館水産高校の前身ではありませんが、函館商船学校のことを知り、大切に守り、語り継ぐことが大事だと思います。

函館水産高校には、函館商船学校から引き継いだ書籍、航海計器、教材、校旗などが現存し、その中には、現在の日本に5台残っているか否かという八分儀があり、さらに、昭和天皇が摂政の時に函館商船学校生徒による天測実習をご台覧なされた時の、由緒ある六分儀も保管されています。

全国に11校あった商船学校には、それぞれ驚くような歴史があるはずです。今だからこそ、その歴史を尋ね、理解することが大事ではないかと考えます。

1 創設者「小林 重吉」

小林重吉は、幕末期、箱館の船主であり、襟裳三ツ石で漁業を営んでいた。これからは西洋型風帆船（スクナー）の時代であることをいち早く悟り、襟裳の三ツ石で従業員の若者に航海術の勉強をさせている。



小林 重吉
(インターネットから引用)

その時の先生は、五稜郭を設計した武田斐三郎が主幹を務めた幕府教育機関「(箱館)諸術調所」の門弟「吉崎豊作」を雇うという、本格的な教育だった。

重吉は、明治11年に、商家の裕福な子弟を教育する函館内濶学校内に間借りという形で私立函館商船学校をスタートさせた。商船学校は、この後、函館縣立～北海道庁立～通信省立～東京商船学校函館分校～北海道庁立と設置者が変わり、昭和10年3月31日、世界的商船不況のあおりを受けて廃校となる。

数年前の話になるが、小林重吉の子孫が函館水産高校の機関工学科に在籍して、卒業後、機関専攻科を修了して、現在、船に乗っている。

2 トーマス・ブラキストン

ブラキストンは、英国の砲兵大尉であり、冒険家、実業家。中でも、日本の鳥類分布の研究で有名で、「ブラキストンライン」にその名を残している。

ブラキストンと商船学校の関わりは、何といても明治13年に函館港で開催された日本最

初のスクナーレースに賞品を提供し続けたことであろう。



写真2 トーマス・ブラキストン

函館中央図書館ではレースを伝える当時の新聞を閲覧できる。レースは明治13年～16年にかけて、毎年、函館港で開催された。ブラキストンは、このレースの優勝賞品として「晴雨計」（現在のアネロイド気圧計）を提供したことがわかっている。

当時、晴雨計1台の値段が300円だったらしく、100円で豪邸が建つといわれた時代だから、大奮発したことがわかる。

このレース開催の目的は、北の海を航海する船の安全確保のために、スクナーの素晴らしさを大和型風帆船（弁財船・北前船）の船主・船員に知ってもらうことにあった。北海道開拓使（現北海道庁）は、東京にある明治新政府よりも10年早く、「今後、500石以上の船を造る場合は、西洋型船にすること」というお触れを出して、このレースを函館商船学校に主管させた。思うに、北の海の手難事故を減らすことは、北海道開拓を推し進める上で開拓使にとり最重要案件のひとつだったのだろう。

スクナーがいかに操船し易く、風上への帆走性能も抜群であることを、このレースは大和型風帆船の船主、船員に見せつけたものと思う。第1回レースの優勝は続造船のスクナー。第2位がトムソン造船所のスクナー。第3位が重吉のスクナーだった。

なぜ300円もする高価な晴雨計をブラキスト

ンは優勝賞品として提供したのだろうか。ブラキストンは、函館で蒸気機関を動力とした製材所を営んでいたこともあり、製材された木材が造船に用いられたことを思うと、レースに賞品を提供することは、ひいては自分の利益にもつながったからかなと思う。

尚、この帆船レースは、ブラキストンがアメリカへ旅立つ年と同じくして閉幕となった。閉幕の理由がブラキストンの旅立ちと関係しているかどうかはわからない。

3 ジェームス・スコット

スコットは27歳の元治元年(1864年・・・ブラジルの現状 島襄が箱館から米国へ脱出した年)にブラキストンに招かれ、函館で日本最初の蒸気機関による製材所を建設した。以後、本国政府のお雇い技師として佐渡金山・釜石鉱山の鉱山改革に当たった。この職を辞してからは、居を函館に定め、日本人の奥さんを娶り、大正14年5月15日、88歳で亡くなった。来日以来、61年間、祖国である英国(スコットランド)へは一度も帰らなかったという。

さて、スコットはどのように函館商船学校に関わったか。大正14年5月発行の函館新聞を読むとわかる。

記事の抜粋を掲げる。

見出し：故スコット翁の使用した旋盤を科学研究を使命とする商船学校へ寄贈 本文：・・・我が国の海員志願者中、機関科志願者が航海に比して至って少く、又機械長の如きも優秀なる技術を有する者少く、尚ほ甲種機関長の免状所有者甚だ少く、殊に地方商船学校の機械設備の貧弱なること、るる口にせりとのことである、此度の寄贈も蓋し翁がこの宿志に出でたるものである。

・・・(略)・・・

尚、商船学校にては従来旋盤の設備なかりし山にて、学校当局者もその必要を認め再三道庁に申請せしも、常に予算の関係上その希望を実

現する能はざりしものである。従て旋盤の実習は、主として卒業後、海軍工廠の如き其他民間の各工場に委託生を出して稍くその実習をなしたるものである。

今でこそ水産高校でも NC 旋盤とか、マシンニングセンターなど当たり前の時代になったが、この記事は、大正末年における旋盤の価値と、機関科の人材養成に死んでも尽くすスコット翁の誠を今に伝える。

ところで、寄贈された旋盤はどこにいったか？ 本校機関工学科の実習室はじめ、校舎にはその痕跡もない。現在の校舎が3代目に当たるので、校舎改築に伴う設備更新で廃棄された可能性が高い。実に惜しいことである。

4 土佐海援隊士 白峰駿馬

白峰駿馬は、越後長岡藩士であるが、脱藩して土佐海援隊士となった異色の人物だ(写真3)。坂本龍馬に「坂本さんが亡くなる時、最後に会いたいのは誰か」と問うたところ、「白峰駿馬」と答えたという。

白峰はその後、米国に留学して「造船」を学び、帰国後、神奈川宿に日本最初の民間造船所を開いた(図1)。

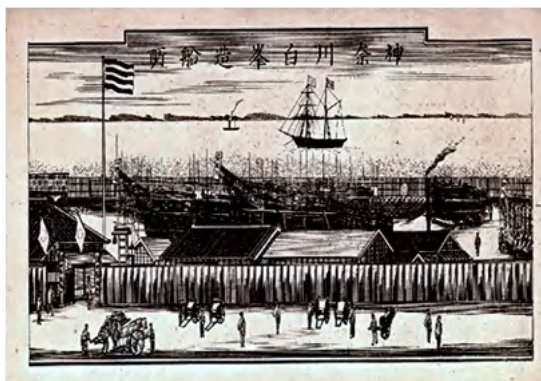


図1 白峰造船所を描いた版画
(インターネットから引用)



写真3 左から3人目：坂本龍馬。右端：白峰駿馬

(インターネットから引用)

さて、白峰の場合、どのように函館商船学校に関わったか。大正●年●月●日発行の函館新聞を読むとわかるので記事全文を掲げる。

○風帆船の雛形 神奈川県下神奈川駅にて世に有名なる白峰造船所の持主「白峰駿馬」氏は、函館港に商船学校の設立あるを伝聞し、海員奨励の一端にとて、今度寄贈されし西洋型風帆船雛形は、多年同氏が造船上に関し刻苦研究して模造したるものにて、去る14年中に開かれし第1回内国博覧会の出品に係わるものなるが、実に我が国、一あって二とはあらざる稀代の品にて、大いに海員の参考となるべきものなり。即ち船名は春風丸と称し、バーク型風帆船にて、横腹は鈍形、大きき凡そ六〇〇噸の24分の1。用材は楠材とす。船敷(船底板)の長さ5尺6寸。幅1尺3寸。檣3本。帆数21枚にて、雛形とはいうものの、全て一点遺るところなく実に捩り製造したるものにて、その精細なる真に鬼工を奪うともいうべく、まず碇鎖及びこれを巻く轆轤、ポンプ、梶取車、その他鉄を用いし箇所は、運転より形までよくも密に製作し、帆は全て七子織の絹にて仕立、帆綱その他の綱具類は皆な蜜蝋を塗り、これに付属するブルック車等は、運転自在にて、かつ端船5

艘を付し、各船に櫂を添えたり。梯子、踏板及び舳の俗に●掛等は透かしを十文字に組立て、釘の打ち様、楫の付方、木材の用法、実にならない、これを見るいよいよ久しければ、いよいよ密なるに驚きたり。もしこの船に適する小人あらば、幾千里の航海をもこの船によってなし得べしとはからずも一笑を催したり。されば海員の学問上にはもっとも入用の雛形とす。これが制作費、凡そ三千余円を費やしたりという。白峰氏がこの必力と歳月と金とを費やして構造したるものを、商船学校へ寄送ありしは、実に志しの厚き感賞のほかなし。尚、同氏が多年造船に尽力ありし経歴等は追って記載すべし。

寄贈された春風丸はどこにいったか？ 現在、それらしい帆船模型は本校のどこにも見当たらない。ただ、手がかりになるものがある。

ひとつ目は、函館水産学校一期生であり、長きにわたり本校同窓会長を務めた本間貞雄氏(故人)が「函水 40 年史」に寄せた記事である。記事に曰く、「……階段教室及び標本室。中には商船学校の遺産で数々の標本及び天体観測器具類、なかでも精密なボタン一つで部分が動く木製雛形帆船は自慢の一つでしたが、後で破損と聴き残念でなりません。……」という文。

ふたつ目は、「函館商船学校第 31 回生卒業記念写真帖」に掲載されている「標本室の写真」の中に写っている帆船模型である(写真 4)。



写真 4 白峰駿馬が寄贈したと思われる「春風丸」

前述の函館新聞記事に春風丸の特徴を探すと、「船敷(船底板)の長さ 5 尺 6 寸。檣 3 本。帆数 21 枚」の文である。

この写真の模型が、前述の新聞記事「船敷(船底板)の長さ 5 尺 6 寸」に該当するかどうかを写真から推測すると、写真に写る 2 枚のカーテンが 1 間幅(約 180cm)あるとすると、この模型は「5 尺 6 寸(約 170cm)」あるように見える。さらにこの写真の模型は「檣 3 本。帆数 21 枚」が確認できることから、「春風丸」の可能性が高い。

しかし、現在、本校にこの模型は残っていない。誰が、いつ、どこで、どのようにしたのか。そして、現在、誰かの手に残っているものなのか知るよしもない。

前述の本間貞雄氏が書き記した「……木製雛形帆船は自慢の一つでしたが、後で破損と聴き残念でなりません。……」が「春風丸」のことだとすると、最悪の結果になったのかなと推測する。

土佐海援隊の「近藤長次郎」が、薩摩藩とトーマス・グラバーの手を借りて英国留学を企てたことが、海援隊の規則違反だとして、切腹を強要され自刃した。

「近藤長次郎」とは何者か。NHK 大河ドラマ「龍馬伝」で長次郎役を「大泉 洋」氏が好演したことは記憶に新しい。史実では、長次郎自刃の際に身につけていた帯(もちろん血染め)を、白峰駿馬が長崎から京都へ滞在している龍馬の元へ届けたことになっている。龍馬は血染めの帯を受け取り、「俺が(長崎に)いたら、(長次郎を)死なせはしなかった」と言っただろう。

白峰駿馬の異母兄「鵜殿団次郎」は、号を「春風」と名乗り、勝海舟に蘭学や英学の才能を買われて幕臣に登用され、江戸にあった幕府機関「蕃書調所」の教授を務めた。函館商船学校に寄贈した帆船模型の名前が「春風丸」というのは、異母兄の「春風」から取ったのではないかと考えられてならない。

越後長岡藩家老「河井継之助」が明治新政府相手に戦った長岡戦争の敗戦で、どん底に瀕した故郷長岡を思い、幕臣である兄「鶴殿団次郎」は、明治元年、享年 38 歳で病没した。

白峰駿馬は、この兄を介して勝海舟の知遇を得、その門下生となり、神戸海軍操練所に入り、後、坂本龍馬の亀山社中に参加し、社中解散後は土佐海援隊士に加わり、維新後、米国留学を果たし、日本初の民間造船所を営むという、文字通り波瀾万丈の人生を歩んだ。その人生のきっかけを与えてくれた兄「鶴殿団次郎」を、白峰は終生慕い続けた証が「春風丸」の船名ではないだろうか。

インターネットで「白峰駿馬」を検索すると「日本造船界の先駆者」というタイトルが出てくる。白峰造船所の手になる船の質はどうだったか。インターネットに「白峰造船所が建造した『九十九丸』が日本で初めて東京海上保険会社から保険対象船と認定され、白峰造船所の技術の素晴らしさが社会に認められた。」という文が掲載されている。

5 おわりに

全船協の前の事務局長だった七呂光雄氏は、「函館は太平洋戦争の空襲被害も本州に比べると甚大ではなかったのか、歴史資料が戦災から免れ、函館商船学校の資料もこんなに残っているととは思わなかった」というような感想を口になさったことがある。今回、再執筆の機会を頂戴して、あらためて七呂氏の言葉を思い出します。

函館商船学校は昭和 10 年 3 月 31 日をもって廃校になりましたが、今こそその歴史と資料を調べ上げ、受け継いでいくべき秋だと思えます。そうしないと、スコットや白峰駿馬寄贈の品々がいとも簡単に葬られたという轍を、我々は再び踏むことになると思えます。「人は歴史を学び、（結局、同じ歴史を繰り返して）歴史を学んでない」という言葉があります。函館商船学校については、函館水産高校が前面に立って調査・保存活動を手掛けるべきだと思えます。そして、本邦商船教育の歴史を現在から未来にキチッと受け継ぐべきだと思えます。（了）



内航海運の概況について

事務局

此処数年、5 高専商船学科卒業生の就職先が外航船社以外に内航船社への増加が見られるようになって来ました。

しかし、就職後の1ヶ月又は1年以内の短期間に退社又は転職等が頻発し、その傾向が増加にあることを本協会は危惧しており、就職前の会社訪問及び入社試験の前に内航海運の特徴等について出来るだけ理解した上で取進めることをお勧めしたく、ここに参考資料として「内航海運の概況」を提供することにしました。(資料は平成29年度版内航海運の活動等より)

1. 内航海運事業者数及び業界構造

平成29年3月31日現在 3,466 であるがこのうち休止等事業者が 462 あり、営業事業者は 3,004 である。(平成29年3月末現在)

1) 登録事業者数 1950

運送事業者 633、貸渡事業者 1317

2) 届出事業者数 1054

運送事業者 871、貸渡事業者 183

3) 業界構造は、小規模事業者が主体で登録貸渡事業者 1,317 社の内約 6 割が一隻所有の一杯船主。

* 元請運送事業者 (オペレーター)

荷主と契約し貨物を運送する事業者で、上位 60 社の運送契約量は総輸送量の 8 割を占める。



2. 内航海運業界の組織

内航海運組合法に基づき、事業形態及び企業規模によって異なる5つの全国的な規模の海運組合(うち一つは連合会)を組織している。これら5組合は、その総合調整機関として 日本内航海運組合総連合会 を構成し、内航総連合会において内航海運暫定措置事業、船員対策等の各種事業を実施している。(平成29年4月1日現在)

組合構成		業種別		船隻数		船員数	
組合名	業種	隻数	種別	隻数	種別	隻数	種別
内航大型船輸送海運組合 (大型)	貨物	127社	177	692,194	199,054		
会長 栗林 宏吉 組合員は、主として、(1)300トン以上の貨物船オペレーター、(2)船舶を運送する船舶所有会社							
全国海運組合連合会 (全国)	貨物	1,024社	18	22	1,808	1,270,828	12,742,627
会長 藤井 聖 海運組合又は海運組合連合会会員とし、かつ平成29年3月31日現在、(1)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体、(2)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体、(3)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体、(4)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体							
全国内航タンカー海運組合 (内航)	貨物	66社	970	882,442	1,852,529		
会長 前井 健司 ※タンカーグループ船主等が主体とするタンカーの船主、オペレーターにより構成されている組合で、(1)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体、(2)の組合員は、主に地方の船主、オペレーターが主体							
全国内航輸送海運組合 (内航)	貨物	70社	403	888,177	1,048,597		
会長 後藤田 直哉 主として、(1)内航船オペレーターで構成され、最大の貨物船種別シェアを有している。							
全日本内航船主海運組合 (全内航)	貨物	30社	494	619,549	542,747		
会長 瀬野 和博 主として、(1)内航船主が主体とする船主により構成される組合							

* 内航海運暫定措置事業の概要

暫定措置事業は、昭和42年から船腹過剰対策として実施してきた船腹調整事業(スクラップ・アンド・ビルド方式)の解消に伴う引当資格の消滅がもたらす経済的影響を考慮し、ソフトランディング策として平成10年から導入したもので、必要な資金

は全て業界の自助努力によってまかなっている。

さらに、平成27年度で主要な事業であった解撤等交付金制度が終了し、平成28年度から環境性能基準や事業集約制度を導入した新しい建造等納付金制度による借入金返済のための枠組みへと移行した。

3. 平成28年度内航輸送実績（主要元請運送事業者60社輸送実績 単位：千トン/千KL）

【貨物船】

- 1) 鉄鋼 40,523 14社
(品目) 一般鋼材、容積鋼材
 - 2) 原料 55,657 23社
(品目) 石灰石、非金属鉱、金属鉱等、
 - 3) 燃料 14,759 14社
(品目) 石炭、コークス等
 - 4) 上・パルプ 2,461 11社
(品目) 木材、紙、パルプ等
 - 5) 雑貨 23,590 20社
(品目) 一般雑貨、油脂類、コンテナ、塩、アルミナ、非鉄金属等
 - 6) 自動車 45,864 10社
 - 7) セメント 29,372 12社
- 合 計 212,226 38社**

【油槽船】

- 1) 黒油 32,104 18社
 - 2) 白油 71,641 15社
(品目) ガソリン、灯油、軽油等
 - 3) ケミカル 8,188 13社
 - 4) 高圧液化 6,844 13社
(品目) LPG、塩ビモノマー等
 - 5) 高温液体 1,358 7社
(品目) アスファルト、硫黄等
 - 6) 耐腐食 5,144 13社
(品目) 硫酸、酢酸、苛性ソーダ等
- 合 計 125,280 29社**

4. 海運事業者と荷主企業との取引状況（主要例）

区分	会社名	荷主企業
鋼材	JFE 物流	JFE スチール
	日鉄住金物流	新日鐵住金
	神鋼物流	神戸製鋼
セメント	東海運	太平洋セメント
	エスオーシー物流	住友大阪セメント
	宇部興産海運	宇部興産
	アジアパシフィックマリン	太平洋セメント
油製品	鶴見サンマリン	JXTG エネルギー
	旭タンカー	出光興産
	上野トランステック	昭和シェル石油
	昭和日タン	JXTG エネルギー

5. カボタージュ制度

カボタージュ制度とは、自国の沿岸輸送すなわち内航海運は自国船に限ると言うルールで、日本のみならず世界的に広く取り入れられているものである。

我が国では船舶法第3条の規定に基づき、「法律若しくは条約に別段の定めが有るとき、外国籍船舶は海難若しくは捕獲を避けようとするとき又は国土交通大臣の特許を得たとき以外は、日本国内の港間における貨物又は旅客の沿岸輸送を行うことが出来ない」こととしている。

カボタージュ制度が多く国々で長年に亘守られているのは、国家の安全保障、地域住民の生活物資の安定輸送、自国船員による海技の伝承、海事関連産業や地域経済の振興など、多方面でこの制度が必要だからである。

【カボタージュ制度を取り入れている国々】

アメリカ、韓国・中国・インドを含むアジア諸国、ドイツ・フランス・イタリアを含むヨーロッパ諸国、ブラジル等中南米諸国。

海事ニュース

○国交省が女性船員の活躍促進へ検討会

国土交通省海事局は6月28日、女性船員の活躍促進に向けた新たな検討会を設置し、30日に同省内で初会合を開くと発表した。新設の「女性船員の活躍促進に向けた女性の視点による検討会」は、9日に最終会合(第8回)を終えた「内航海運の活性化に向けた今後の方向性検討会」での議論を受けて立ち上げる。学識経験者、船員経験者、海運業界関係者で委員を構成し、8人全員が女性。女性の視点から検討を開始する。

内航船員は50歳以上が約半数を占めており、高齢船員の退職に伴う船員不足が懸念されている。女性船員は全体のわずか2%。内航活性化検討会でも女性船員の拡大に向けた取り組みの重要性が指摘された。

(日本海事新聞 6月29日付け)

○「内航未来創造プラン」を策定／船舶管理会社の活用など

国土交通省は6月30日、おおむね10年後を見据えた内航海運業の新たな産業政策「内航未来創造プラン-たくましく 日本を支え 進化する」を策定し、公表した。船舶管理会社の登録制度創設で船舶管理会社活用を促すほか、内航での自動運航船の実用化、船員教育体制改革・船員配乗のあり方を検討するなどとした。施策推進の効果を上げるため、具体的な数値目標を掲げた上で結果を検証するよう求めている。内航海運の重要政策である暫定措置事業は、海運組合のあり方も含め業界が主体的に検討するよう求めている。国交省は同プランを基に内航政策を推し進める一方、内航業界も自身で将来のあり方を議論していくことになる。

内航業界は、船舶と船員の2つの高齢化、中小

企業が多く経営基盤が脆弱(ぜいじゃく)といった課題があるほか、モーダルシフトや地球環境問題への対応も必要だ。こうした課題を受け、国交省は昨年4月、内航事業者や荷主、学識経験者などで構成する「内航海運の活性化に向けた今後の方向性検討会」を発足。同10月から中長期的な内航海運の活性化に向けて「安定的輸送の確保」「生産性向上」の2テーマを軸に、委員の発表などを交え活性化策の議論・検討を進めてきた。今年6月9日に最終となる第8回会合を開き、同プラン策定に向けて議論した。

同プランでは今後取り組むべき施策として「内航海運事業者の事業基盤の強化」「先進的船舶などの開発・普及」「船員の安定的・効果的な確保・育成」の3つを柱に掲げている。

事業基盤強化では、内航業界で利用が進んでいない船舶管理会社の活用促進を図るため、2018年度から「国土交通大臣登録船舶管理事業者」(仮称)という登録制度を創設するとしている。荷主と海運事業者の連携強化では、今年度から輸送品目別の「安定・効率輸送協議会」(仮称)、新たな輸送需要を掘り起こす「海運モーダルシフト推進協議会」(仮称)設置などが明記されている。

先進的な船舶の開発・普及では、25年をめどに内航での自動運航船開発を進めるとした。そのほか、船舶の省エネ化の促進なども盛り込んだ。

船員の確保・育成では海技教育機構の養成定員を段階的に500人への拡大、船員配乗のあり方などを検討する。

(日本海事新聞 7月3日付け)

○船協・九州船対協／福岡で意見交換

日本船主協会と九州地区の内航関係官民で構成する九州地区船員対策連絡協議会は5日、福岡市内で船員教育機関と人材確保・育成に関する懇談会を開いた。内航海運業界と山口県を含む九州沖縄地区の船員教育機関関係者ら約60人が出席し、

船員教育について意見交換。学校側は若年船員を長期的に育成する職場環境などで要望を出した。一方、内航業界からは、水産系高校や海上技術学校が重要な船員供給源になっているとし、今後、産官学の連携を密にしていきたいなどの声があった。

同懇談会は今回で9回目。鶴丸俊輔・船協九州地区船主会議長、栗林宏吉・船協内航委員長、三木孝幸・同委員会副委員長、原田勝弘・九州地区船員対策連絡協議会会長、木村五六・同協議会副会長のほか、船協・内航関係者、山口県を含む九州・沖縄地区の水産系高校、海上技術学校の関係者、九州運輸局の担当者らが出席した。

各校は最近の就職状況などを説明した。船社への要望では、「定期的に求人票を出してほしい」「若年船員を長期的に育成する職場環境が必要」などの意見が出た。このほか、就職後数カ月程度で離職するケースもあるものの、大半は再び船員として働き始めているとの説明があった。

(日本海事新聞 7月10日付け)

○全内船 岡山で「就職懇談会」

全日本内航船主海運組合(瀬野和博会長)は、船員確保対策として水産系高校との懇談を進めている。6月28日に岡山市内で、西日本の水産系高校8校と同組合員(事業者)13社が参加した就職懇談会を開き、船員就職状況に関する話し合いを行った。全内船では2008年以降、水産系高校を対象とした懇談の場を岡山市などで毎年設けており、学校からも好評を得ているため今後も継続する方針。

今回は過去最多の13社が参加した。参加船社は参加校の生徒を採用するなど着実に実績を上げている。昨年度は、6月に岡山市で水産系高校6校と会員事業者11社が出席した。

内航業界では次世代の担い手となる船員の供給源として、水産系高校に期待を寄せ、積極的に

意見交換している。瀬野会長も6月の全内船の総会後の会見で、水産系高校卒業者の一層の掘り起こしを図っていく考えを示した。

一方、高校側も生徒の就職に向け、就職活動開始前に内航船社の動向などを情報収集できる場として、こうした機会を活用している。

(日本海事新聞 7月12日付け)

○海の日に両陛下が横浜港へ／帆船「日本丸」など視察

「海の日」の7月17日、天皇、皇后両陛下が横浜港を訪れ、みなとみらい21地区に係留保存されている帆船「日本丸」や日本郵船歴史博物館などを視察された。

両陛下は同日午前、海の日に合わせてボランティア101人が「日本丸」の29枚の帆すべてを広げる「総帆展帆」を見学された。その後、横浜みなと博物館で「日本丸」の重要文化財指定を記念した企画展「帆船日本丸の航跡」を視察された。

ボランティアに見送られ横浜みなと博物館を後にした両陛下は、午後から日本郵船歴史博物館を訪問。殉職戦没社員冥福祈念像をはじめ、同社や日本海運の歩みに関する館内展示を熱心に鑑賞された。

(日本海事新聞 7月19日付け)

海運・造船業界の動向 (2017年7月末現在)

【全体の動き】

慢性的な人材採用のニーズはありながらも、選考を進め、慎重に検討している印象である。

その中でも、海技者の募集が最も多い。海務監督、安全監督、工務監督が主流であるが、海技知識・経験を活かした P/I 保険、損害保険、また便宜置籍における専門求人が増えている。

【営業系-船舶運航管理、用船など】

営業系・事務系ポジションの採用は、一旦落ち着いた印象がある。

5年～10年程度の船舶運航管理経験(要英語力)と、船種を限定した非常に少ない層のベテランを期待する二極化が進んでいる。

【海技系-船舶管理、海務・工務監督】

監督業務は求人依頼が最も多い職種であるが、これまでと大きく異なり、採用時に海技免状と乗船履歴を重要視する傾向にある。

また安全監督、マンニング・労務管理の求人が少しずつ増加している。

【その他-フラッグ、保険、外資メーカーなど】

P/I 保険、損害保険会社での調査業務、便宜置籍関連での審査・申告・登録業務等の求人が出始めている。

前者は乗船経験と陸上での工務経験充分なベテラン層が対象であり、後者は外資系企業が中心の為、高い英語力が必要とされている。

少数ではあるが、外資系企業から船用電子機器システムに関する求人依頼もあり、こちらの職種も英語力が要求されている。

■転職アドバイス

企業は慎重に選考を進めているので、応募企業や求人内容を十分に理解した上で、経歴書類(履歴書、職務経歴書、乗船履歴書)を作成いただく事が重要です。

また面接においても、これまでの経験は勿論、人物像、また志望動機や転職理由も含め、自社に

合う人材かどうか丁寧に見極め採用しています。企業が求める人材に関する情報をしっかり収集された上で、自分の強みを伝えられるよう準備いただくことをお勧めしています。

経歴書類の作成、面接対応につきましても、遠慮なくご相談ください。

<情報提供元>

キャプラン株式会社

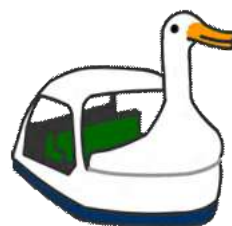
<https://www.caplan.jp/>

担当：佐々木

住所：〒100-8228 東京都千代田区大手町 2-6-2

TEL：03-6778-5514

MAIL：marine@mail.caplan.jp





富山高等専門学校

学校だより

○石原外美校長の離任式を実施

平成 29 年 3 月 31 日（金）で退任となる石原外美校長の離任式が、本郷キャンパスおよび射水キャンパスで行なわれました。石原校長は、平成 25 年 4 月に富山高等専門学校長に就任し、4 年間本校の運営に尽力されました。離任式では、教育研究の高度化、グローバル展開、地域貢献等を精力的に行ったこと、教職員が一体になって取り組んでくれたことに感謝の意を述べられました。

○賞雅寛而校長の着任式を実施

平成 29 年 4 月 4 日（火）、賞雅寛而（たかまさともじ）新校長の着任式を行いました。賞雅校長は、東京海洋大学教授から、富山高等専門学校長に着任され、専門分野はエネルギー工学、原子力工学、船舶海洋工学です。東京海洋大学在職中は同大理事・副学長（研究・国際担当）も務められました。着任式では、賞雅校長から、セキュリティの確保、コミュニティネットワークの構築及び組織の活性化等、富山高専の運営に対する抱負が述べられ、教職員は、業務に臨む姿勢を新たにしました。

○平成 29 年度入学式を挙

平成 29 年 4 月 6 日（木）、平成 29 年度入学式をオーバード・ホールにおいて挙行しました。式では、入学者の名前が一人ずつ読み上げられ、賞雅寛而校長から入学許可が宣言されました。賞雅校長から「人との出会い、他者とのコミュニケーション、そして共同体験を大切にして、本校の恵

まれた環境の中で、青春を謳歌しながら、幅広く物事に挑戦して大きく成長することを心から願っています。」と式辞が述べられました。

続いて新入生を代表し、電子情報工学科の今井英さんが、「高専でしか学べない専門的な知識や実践的な授業を通しての技術を身につけ、世界に羽ばたく社会人になるために、目標を持って日々の学習に取り組んでいきたい。」と、またエコデザイン工学専攻の跡治慎也さんが、「本科で身につけた基礎学力を深めると同時に、社会に大きく貢献できる人材になれるよう、精一杯研究に励み経験を積み、富山高等専門学校の新たな歴史をつくるために、日々精進し続けることを誓います。」とそれぞれ力強く誓いの言葉を述べました。



オーバード・ホールにおける入学式



式辞を述べる賞雅寛而校長



新入生代表の誓いの言葉

入学者数

〈学科新入生〉機械システム工学科	42名
電子情報工学科	43名
電気制御システム工学科	43名
国際ビジネス学科	43名
物質化学工学科	40名
商船学科	40名
	計 251名
〈外国人留学生（学科3年次へ）〉	
機械システム工学科	1名
物質化学工学科	1名
国際ビジネス学科	1名
	計 3名
〈専攻科〉	
エコデザイン工学専攻	34名
制御情報システム工学専攻	10名
国際ビジネス学専攻	4名
	計 48名

○新任教員の紹介

4月1日に練習船「若潮丸」に、中松英也 船長、檜谷亮一 一等機関士が着任されました。お二人ともに、富山商船高専の卒業生であり、これまでのご経験を、練習船の安全運航と学生の教育指導に活かして頂いております。

○海技教育機構の練習船が七尾港、伏木富山港に入港

4月24～28日に七尾港に「青雲丸」が入港しました。この間の25～26日には、当校の練習船「若潮丸」が同岸壁に停泊しました。ここで、乗船し

ていた商船学科2年生に対して、「青雲丸」の見学会を実施して頂きました。5月18～22日には「大成丸」が伏木富山港に入港し、ここでは商船学科1年生への見学会を実施して頂きました。今後、伏木富山港には、8月7～12日には「日本丸」、10月19～24日には「銀河丸」が入港する予定です。



海技教育機構「青雲丸」の見学会 於：七尾港

七尾港における海技教育機構「青雲丸」の見学会（同岸壁に着岸中の練習船「若潮丸」に乗船中の商船学科2年生に対して実施して頂きました。）

○キャリアガイダンスによる特別講義

「元船長、海と船について語る」

内海水先人 栗坂 肇

当校では、学生の進路選定の指導と手助けを行うべく、各業界の実務経験者の講義による「キャリアガイダンス」を実施しています。5月31日には商船学科4年生を対象として、内海水先人の栗坂肇氏による特別講義「元船長、海と船について語る」を

実施して頂きました。栗阪氏は、LNG 船、ばら積み船、石炭船等の航海士と船長として十数年の海上履歴を積み、現在は内海水先人として活躍されています。

栗阪氏が石炭船の船長として 2013 年に富山新港に入港する機会があり、その時に当校教員との交流ができ、栗阪氏が、新任航海士時代から、現在の水先人業務に至るまで、多くの全船協会員の皆様からご指導を頂いた思いもあり、今回の特別講義をお引き受け頂きました。講義の場面では、栗阪氏のような船種や航路での経験談があり、学生の多くが非常に興味深く聞いておりました。

また、質問コーナーでは、船員の実際の生活について、学生時代にしておくべきこと等の多くの質問が出ていて、栗阪氏の豊富な経験から、様々なお話を頂きました。これから進路選定を具体的に行っていく 4 年生にとって、貴重な時間を過ごせたことと思えます

是非、全船協会員の皆様にも、機会がありましたら、こうしたガイダンスにご参加頂けたらと思います。



内海水先人 栗阪肇 氏による特別講義

○平成 29 年度 7 月から 10 月の予定

7 月 13 日 カッターレース大会

(予備日：7 月 18 日)

7 月 26 日 専攻科海事システム工学専攻 特別研究発表会

(8 月 8 日～9 月 21 日 学生夏季休暇)

8 月 8～10 日 射水キャンパス夏季オープンキャンパス

9 月 26 日 商船学科卒業式、専攻科海事システム工学専攻修了式

10 月 15 日 ロボコン東海北陸地区大会 (鳥羽)

10 月 24～27 日 県外企業見学 (4 年生)

10 月 27 日 県内企業見学 (3 年生)

(教務主事補 商船学科 千葉元)

○新入生合宿研修

5 月 10～11 日の 2 日間、両キャンパスの本科 1 年生 (計 254 名) が国立能登青少年交流の家集まり、新入生合宿研修を行いました。初日はカッター、カヌー、アーチェリー、ディスクゴルフ、七宝焼き等の活動を行い、交流を図りました。夜は校歌練習、学科紹介の出し物を実施しました。

翌日にはスマホ・携帯電話の利用についての講義を受け、のとじま水族館ではイルカショーやペンギンの散歩等を楽しみました。2 日間で学科やキャンパスを超えて学生間の交流を深めることができ、有意義な合宿研修となりました。



カヌー体験



校歌練習

(学生主事補 商船学科 山田圭祐)

鳥羽商船高等専門学校

学校だより

○ISECON で社会貢献賞を受賞

情報処理学会が主催する ISECON(情報システム教育コンテスト)にて、東京都視覚障害者生活支援センターと研究を進めている「Office365での視覚障害者自立・就労支援のための学習支援システムの構築」について社会貢献賞をいただきました。

専攻科 2 年生の島影瑞希さんと藤田梓さんが 3 年間かけて取り組んできた成果が認められました。

なお本研究は、科学研究費補助金(15K01111)の助成を受けております。



学習支援システムの説明パネル



社会貢献賞の賞状

○平成 28 度 電子機械工学科・制御情報工学科卒業式並びに生産システム工学専攻修了式を挙

平成 29 年 3 月 12 日(日)、平成 28 年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式を挙

行しました。新田校長から電子機械工学科 38 名、制御情報工学科 41 名へ卒業証書が、専攻科生産システム工学科専攻 10 名へ修了証書が手渡されました。

新田校長は卒業生らに対し、「今まで以上にスピーディに変化する社会において、自らの羅針盤を持ってほしい、皆さんが飛び込む世界で困難なことがあった時も、置かれた場所で咲く努力をすることはとても重要なことかと思

います。」と祝辞を述べられました。続いて、来賓である木田久主一鳥羽市長、田中同窓会会長より、御祝辞をいただきました。また、在校生の代表から送辞があり、卒業生代表から答辞、修了生代表挨拶が読み上げられました。

続いて、在学中における功績として、優等賞、皆勤賞、精勤賞、一般社団法人日本機械学会鳥山賞、特別表彰(日本工業英検文部科学大臣賞)の授与が行われました。式の最後には校歌斉唱が行われ、卒業生・修了生を祝福しました。



校長祝辞



修了生代表挨拶



レーザーポインタによる星座表示デモンストレーション

○「高専向け NI myRIO 組込開発コンテスト」最優秀賞・優秀賞 受賞

3月13日(月)に日本ナショナルインスツルメンツ本社にて、高専向け NI myRIO 組込開発コンテストの最終発表会が行われました。本校制御情報工学科から出場した2チームが最終選考(10チーム)に進出し、プレゼンテーション・デモンストレーション審査を受けました。その結果、最優秀賞(全国1位)・優秀賞(2位)を受賞しました。



全員集合

【最優秀賞】作品名「ミエトワール」

チーム「To Show」ミエトワールは、レーザーポインタを用いて星座観測を支援するシステムです。季節や星座をPCの画面から選択するだけで、レーザーポインタが星座を構成する星々を指してくれます。その独創性や誰にでも簡単に使用できる点が評価されました。

【優秀賞】作品名「ハイテクリーナー」 チー

ム「To Erase」ハイテクリーナーは、ホワイトボードの文字を自動で消してくれるロボット車です。ホワイトボードに磁石で張り付き、走行しながら文字を消していきます。特定の色で囲っ



ハイテクリーナーのデモンストレーション

た線の内側は消さないなど、高機能な点、完成度の高さが評価されました。

○平成29年度本科並びに専攻科(生産システム学専攻)入学式を挙

行 暖かく晴れ渡った春の日差しの下、4月4日(火)本校第2体育館において平成29年度本科並びに専攻科の入学式を挙

行いたしました。 本科生128人、専攻科生11人の計139人が入学いたしました。

式では、林校長の入学許可の後、式辞で「在学中、多くの友人と一緒に勉学・クラブ活動に励んでほしい。皆さんが人生に迷った時、道標となる志を立ててほしい。」と述べられました。在校生代表から歓迎の辞の後、新入生代表から

宣誓が、専攻科入学生代表生産システム工学専攻代表から挨拶があり、式は厳かのうちに終了いたしました。



専攻科入学生代表生産システム工学専攻代表

○ニュージーランド・オタゴポリテクニクとのミーティング

4月27日、ニュージーランドのオタゴポリテクニクより、留学担当者のケリー・ホジソンさんが来校し、留学に興味のある学生に対して、ニュージーランドや留学の魅力について語っていただきました。当日はこの夏にオタゴポリテクニクへの留学を予定している学生を中心に、これから留学を考えている学生たちが集まり、質疑応答の時間も設けながら、興味深い話を聞いていました。



留学説明会

○実用英検「奨励賞」を受賞

本校が実用英検の「奨励賞」を受賞しました。実用英検「奨励賞」は平成28年度実用英語技能検定に多数参加し、英語教育に多大な成果をあげた団体が表彰される賞です。平成28年度には本校学生が準1級合格するなど、英語教育に力を入れています。

○練習船鳥羽丸からのお知らせ

平成29年5月8日（月）～11日（木）に実施いたしました航海コース5年生の鳥羽丸実習は、本年度寄港地を御前崎港から神戸港に変更して行いました。鳥羽丸の神戸港への初入港に際し、鳥羽商船卒業生及び関係者の皆様より多大なご支援を頂きました。誠にありがとうございました。



今後とも練習船鳥羽丸のご支援よろしくお願い申し上げます。

練習船鳥羽丸の情報は、Facebookで発信しております。

【<https://www.facebook.com/tobamaru.jp>】

(商船学科航海コース 齊心 俊憲)

同窓会だより

7月9日（日）鳥羽市民文化会館大ホールにおいて攻玉伝が上演されました。

当日は好天に恵まれましたが市内各地で天王祭と重なり、満席には少し足りませんでした。500名弱の観客に観ていただきました。

中村鳥羽市長、野村県議、鳥羽市議会議員の皆様、そして母校から林校長はじめ教職員の方々、母校奨学後援会の役員、そして東京から攻玉社学園同窓会の木村さんと森さん、中学校教頭の内海さん達にも見に来ていただきました。

4月から週2回の練習を重ね当日の公演を迎えました。最初の練習からずっと見学してきた私は演技の上手下手はさておき一生懸命さに心打たれて当日を迎えました。

上演当日、私は舞台裏で観客席の笑いと拍手、そして涙を誘う劇の進行に注力しながら幕係を担当していました。

フィナーレの舞台上で大きな拍手に包まれた出演者たちは感激と達成感に浸ったのか皆泣いていました。

この経験は私も含め一生忘れられない思い出になりました。

公演終了後観客の皆様から多くの賞賛の言葉をいただきました。

たぶん義理で初めて芝居を見に来てくれた友達も予想外の感動だったのか涙目で褒めてもらいました。

母校関係者にも母校の講堂で学生と関係者全員に見せてあげたいとまで言っていただけでした。

多くの鳥羽市民も鳥羽の偉人に明治6大教育家の一人と数えられる近藤真琴翁が鳥羽商船学校を創ったことを初めて知り、鳥羽の誇りを改めて認識していただいたのではないかと思います。

出演者に母校寮生から2年生4人の女子、4年生女子2人、コーラスに男女学生10人、映像班に制御情報科5人の後輩の頑張りもあってこの劇が大成功に終わったと思います。

鳥羽商船同窓会からの多額のご支援ありがとうございました。

かたらずか劇団の東谷団長はじめ多くの皆様、

S5 6 Eの塩野さん素晴らしい脚本ありがとうございました。

DVDも今月中にはできあがると思います。

この記事近日ホームページに写真と共にアップします。

暑い日本の夏が到来しました。

皆様体調管理に充分ご留意お願いいたします。



舞台一場面



感激のフィナーレ



出演者一同

事務局 江崎隆夫

広島商船高等専門学校

○自然の下で交流体験 雪遊び体験を実施 (2月)

障がい者交流事業「自然の下で交流体験 雪遊び体験」を大佐スキー場（北広島町）で実施しました。保護者を含めた14名と本校学生13名が参加しました。かまくらや滑り台を作ったり雪合戦をしながら楽しく交流を行うことができました。



雪遊び体験

○地域のすみれ祭に出展 (2月)

地（知）の拠点事業（COC教育・文化グループ）では、すみれ祭に「古い地名に隠された先人の知恵！」を出展しました。

当日は島の方々から、災害が起こりやすい場所と地名に関する有益な情報をたくさん聞き取ることができました。このデータをもとにして、将来的には島の防災マップを完成させ、地域の発展に大いに貢献したい趣旨です。



すみれ祭に参加

○地（知）の拠点事業成果報告会を開催 (3月)

本校にて平成28年度成果報告会を行い、島内外から約50名の参加がありました。

この報告会では、共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生氏を講師にお招きし、「地域人材育成と社会連携教育～社会に開かれた学びを生み出すCOC事業の意味と意義～」と題した基調講演を実施し、その後、教育分野を中心に本校の学生や教員による成果発表・ポスターセッションを行い、参加者は熱心に聴講されていました。



地（知）の拠点事業成果報告会の模様

○平成29年度入学式開催 (4月)

新入生144名が来賓、保護者、教職員の祝福を受けて入学しました。

入学者数

商船学科	46名
電子制御工学科	45名
流通情報工学科	44名
編入生	1名
専攻科 産業システム工学専攻	8名

辻校長から、「勉学と課外活動を通して多くの友を作り、多くの事を学び、それらを自分のものとし、人生の土台、すなわち基礎づくりに努めてください。」と式辞があり、続いて流通情報工学科 横山夏樹さんが新入生総代として「校則を守り、学生としての本分を尽くして、社会に有為な

人物となるよう努力することを誓います」と宣誓しました。



入学式の模様

寝食を共にする中で気心が知れ、なごやかな雰囲気となりました。



新入生オリエンテーション

○島の仕事図鑑の完成 お披露目会開催（4月）

大崎上島商工会議所で、大崎上島への定住者促進パンフレット「島の仕事図鑑」の完成お披露目会が開催されました。このパンフレットは、大崎上島町商工会を中心に、本校学生と地元の県立大崎海星高校の生徒が協同して製作しました。参加した学生からは、「地域の方や海星高校の方と交流を深めることができた」、「大崎上島の魅力を再発見できた」などの声が聞かれました。

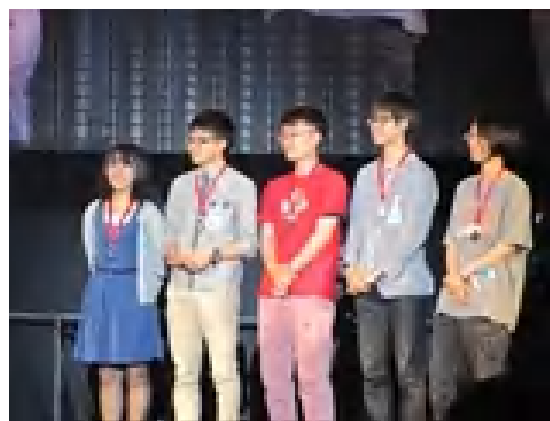


お披露目会参加メンバー

○EDGE INNOVATION GROOVE

AWARD 最優秀賞と TDK 賞を受賞（6月）

茨城県つくば市で開催された INNOVATION WORLD FESTA 2017 で行われた EDGE INNOVATION GROOVE AWARD にて本校の電子計算機研究会に所属する流通情報工学科 4 年生の所属するグループが最優秀賞と TDK 賞を受賞しました。



最優秀賞と TDK 賞の受賞者

○新入生オリエンテーション（4月）

「国立三瓶青少年交流の家」において、新入生オリエンテーションを実施しました。新入学生同士の親交を深めるため、野外炊飯や自然体験活動を行いました。はじめ緊張していた新入学生は、

○山の日イベントに参加（6月）

広島県の山の日イベントで、大崎上島町でも各種イベントが開催されました。その中でも本校は神峰山ウォークに COC 教育・文化グループがガイド役を務め、大崎上島ウルトラマラニックにはカッター部と陸上部がボランティアスタッフと

して参加し、県立大崎海星高校の文化祭には写真部が出展と、総勢約 100 名の学生と教員で大崎上島を盛り上げました。



神峰山ウォーク

(高専 N8 期、水井真治、記載)

○平成 29 年度 校友追悼合祀式ご案内

本年度合祀式を下記要領で実施しますので、多数の会員の参加をお願い申し上げます。

尚、連絡不十分で不案内の校友が近隣におられましたらお誘い併せの上、ご参加下さい。

1. 日 時 平成 29 年 10 月 29 日 (日) 12 時 30 分～

2. 場 所 広島商船高専、慰霊碑広場

注：昼食を準備しますので、事前連絡の上、11 時 30 分までにご来校下さい。

尚、当日は商船祭のため、送迎は予定しておりませんのでご了承下さい。

3. 問合せ先 校友会事務局

TEL： 0846-65-3899 (月、水、金)

E-mail: koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

(広島商船高専校友会事務局、記載)

大島商船高等専門学校

学校だより

平成 29 年度は、**創基 120 周年、高専創立 50 周年記念**の年になります。

昨年度末から 6 月にかけて行われた、主な式典、教育活動、地域連携などを紹介します。

1. 式典・催事

○平成 28 年度卒業証書授与式、専攻科修了証書授与式

平成 29 年度卒業証書、専攻科修了証書授与式を、平成 29 年 3 月 17 日（金）に挙行了しました。今年度 3 月の本科卒業生は電子機械工学科 41 名、情報工学科 44 名、専攻科修了生は電子・情報システム工学専攻 10 名でした。

○平成 28 年度退職時永年勤続者表彰式

平成 28 年度退職時永年勤続者表彰式を、平成 29 年 3 月 29 日（水）に執り行いました。対象者に表彰状ならびに記念品を授与しました。商船学科 古藤泰美 教授、木元妙子 寮務係長の 2 名が表彰されました。表彰式では、石田校長より、長年の勤務に対して感謝と労いの言葉が述べられました。表彰者を代表して古藤教授より、これまでの教育現場での体験談を交えて謝辞が述べられました。



古藤教授・木元妙子寮務係長（右）

○平成 29 年度入学式

平成 29 年度入学式を、平成 29 年 4 月 5 日（水）に挙行了しました。今年度は、商船学科 40 名、電子機械工学科 45 名、情報工学科 42 名の合計 127 名が入学しました。また、電子・情報システム工学専攻に 8 名が入学しました。石田校長は、新入生の 3 つの心得として「お互い恥ずかしがらずに挨拶を交わし、言葉を交わし、そして多くの良き友人を作ること」「勉学では、受け身の姿勢ではなく、自らが問題意識を持つこと」「何かあれば迷わず教職員に相談すること」を話し、式辞としました。



入学式の様子

2. 教育活動

○平成 29 年度新入生合宿研修を開催

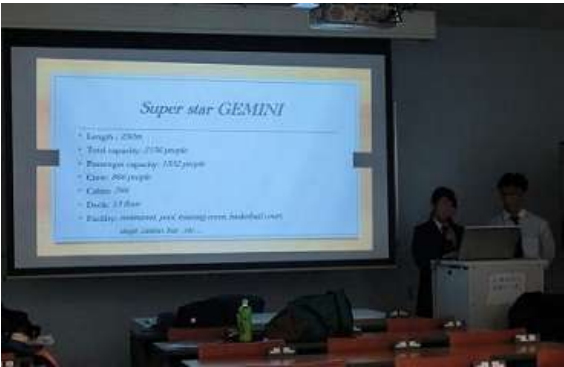
平成 29 年 4 月 17 日（木）、18 日（金）国立徳地青少年自然の家において、毎年恒例の新入生合宿研修を開催しました。団体行動及び共同生活の体験を通じ、本校における学生生活の基礎を養うことを目的としています。新入生、教職員合計 137 名が参加しました。2 日間の合宿を通して、知り合ってまもない新入生同士が随所で助け合い、協力して物事を解決する姿が見られました。



新入生合宿研修

○シンガポール・マリタイム・アカデミー 海外研修報告会

平成 29 年 5 月 18 日（木）の放課後、本校が国際交流協定を結んでいる、シンガポール・マリタイム・アカデミー（以下 SMA）で行われた研修に参加した学生が、報告会を行いました。学生たちは、研修の内容について英語でプレゼンテーションを行いました。研修に参加した学生たちは、海外での研修に刺激を受けると同時に、英語学習に対するモチベーションを高めた様子でした。



シンガポール・マリタイム・アカデミー海外研修報告会

○商船学科 5 年生“大島丸”航海実習を実施（行先：長崎県）

本校練習船大島丸を用いて、平成 29 年 5 月 22 日（月）～26 日（金）に、商船学科 5 年生の学生が長崎への航海実習を行いました。厳しい実習の合間、三菱重工業（株）の史料館と日本郵船（株）が建造中の LNG 船見学を行いました。



三菱重工長崎造船所史料館記念撮影

○平成 29 年度ブックハンティングを開催

平成 29 年 5 月 27 日（土）ジュンク堂書店 広島駅前店の協力のもと、ブックハンティングを実施しました。このイベントは、学生が書店に出向き、自身で選書することによって、良書に親しみを持つこと、教養を高めることを目的として開催しています。引率教員および図書委員 14 名が参加しました。

ブックハンティングで選書する学生



○商船学科 4 年生“大島丸”航海実習を実施（行先：福岡県）

本校練習船大島丸を用いて、平成 29 年 6 月 20 日（火）～ 23 日（金）に、商船学科 4 年生の学生が福岡県（博多港、門司港）への航海実習を行いました。乗組員の監視の下、出港から揚投錨までの計画立案から実践まで、学生が考えて行う有意義な実習となりました。

3. 地域連携活動、公開講座など

○地元企業の本校練習船大島丸を利用した新入社員研修

平成 29 年 5 月 16 日（火）に、山口県田布施町にあるポンプメーカーの大晃機械工業株式会社様が、本校練習船大島丸を用いて、新入社員研修プログラムを実施しました。大晃機械工業様は本校の地域連携交流会会員企業でもあり、新入社員 13 名が参加されました。社内において船用ポンプに関する基礎を学ん

だ後、実際にポンプが動いて船舶が運航していることを実感していただけたと存じます。大島丸で行った研修を今後の業務に役立てていただけることを期待しています。



練習船大島丸を利用した新入社員研修

○山口県岩国市と包括連携協定を締結

平成 29 年 5 月 23 日（火）に、山口県岩国市と、地域社会の発展と人材の育成に寄与するため包括連携協定を締結しました。今までの 2 年間で、両機関が真摯に協議を重ねて実現しました。「教育・文化・スポーツの振興に関すること」として、岩国市教育委員会と連携を行い、岩国市内の各学校とも一層の情報交換に努め、学生の健全育成に寄与することが期待されます。



石田廣史校長（写真左）と福田良彦岩国市長（写真右）

○地元小学校における防災出前授業を開催

平成 29 年 6 月 12 日（月）、6 月 14 日（水）に岩国市立の小学校において、「専門家と連携した防災出前授業」を実施しました。この授

業は、児童生徒の防災対応能力を育成すること。学校の防災対応を支援することを目的としています。地域のハザードマップについて紹介や災害時の行動の仕方などの講演、ロープワーク指導などを行いました。



地元小学校で行った防災出前授業の様子

4. 学校PR活動

○平成 29 年度 第 1 回オープンキャンパス

今年度 1 回目のオープンキャンパスを平成 29 年 6 月 17 日（土）に開催しました。中学生および保護者様を主として、計 280 名にご参加いただきました。昨年度の 1 回目と同様、事前予約不要のフリー見学形式で行いました。そのため、中学生は興味のある多くのブースを見学していました。第 2 回目（中学生対象、事前予約必要）は 8 月 5 日（土）に開催。第 3 回目は 11 月 3 日（金・祝）に学園祭と同時に開催されます。



平成 29 年度 第 1 回オープンキャンパス

○国立高等専門学校（商船学科）5 校合同 進学ガイダンスに参加

平成 29 年 6 月 10 日（土）に兵庫県神戸市、平成 29 年 6 月 25 日（日）に広島県広島市において、（一社）日本船主協会が主催する合同進学ガイダンスに参加しました。主に中学生、保護者、先生が来場され、船員や商船高専に対する興味を高めているようでした。



合同ガイダンス説明内容例

○山口県内 3 高専合同学校説明会に参加

平成 29 年 6 月 24 日（土）に山口県下関市で開催された、山口県内 3 高専合同学校説明会に参加しました。高等専門学校の制度や商船学科の説明を行いました。

◎昨年度末から 6 月にかけて表彰された 主なクラブ活動

○【コンピュータ部】学生がコンピュータフェスティバルで受賞



受賞後のコンピュータ部



ロボット研究部

平成 29 年 3 月 13 日（月）、米子工業高等専門学校で、第 24 回コンピュータフェスティバルが開催され、本校コンピュータ部が競技部門、メディアコンテンツ部門、ソフトウェア部門において賞を受賞しました。3 学科の学生、寮生、通学生、本校 OB の教員がそろっているクラブです。

○【ロボット研究部】全国 1 位受賞

昨年 12 月、NHK などが主催するロボットコンテストの公式サイトで募集があり、ロボコン 30 年記念企画にロボット研究部が応募しました。平成 29 年 4 月 30 日（日）、応募した作品の中から選考される「ニコニコ超会議賞」を、全国投票の結果 1 位で受賞しました。お祝いロボットの動画を NHK に制作していただきました。Web 検索により動画を見ることができます。

◎おわりに 皆様のお力添えやご尽力のおかげをもちまして、今年度本校は、**創基 120 周年、高専創立 50 周年**を迎えることができました。**平成 29 年 11 月 18 日（土）**に記念式典を執り行います。今後ともお引き立てよろしくお祈いします。

（教務主事補 村田 光明 記）

弓削商船高等専門学校

学校だより

○平成29年度入学式

平成29年4月6日、商船学科44名、電子機械工学科45名、情報工学科45名、編入学生（電子機械工学科4年、情報工学科4年）2名、留学生1名、専攻科生（生産システム工学専攻）5名の142名を迎えて入学式が行なわれました。入学式終了後は、保護者説明会、学級担任との懇談会も行われました。



入学式

○マイコン部が愛顔のえひめ賞受賞

平成29年4月25日（火）、マイコン部のknee's needs チーム5名が愛顔のえひめ賞受賞のため、愛媛県庁を訪問しました。

中村知事から賞状・盾を頂き、システムの説明を、簡単なデモを交えて行いました。受賞式の後、総務省四国総合通信局を表敬訪問し、受賞の報告を行いました。

本受賞は総務省 NICT 主催起業家甲子園最優秀賞・総務大臣賞受賞によるものです。



知事と受賞後メンバー

○第43回瀬戸内商船高等専門学校二校定期戦開催

平成29年6月17日（土）に、例年恒例となった広島商船高専との定期戦が実施されました。本年は梅雨時期にしては最高の天候となり、無事すべての競技が実施されました。結果は表に示すとおりです。



二校定期戦結果及び写真

第43回瀬戸内商船高等専門学校二校定期戦結果一覧表

広島商船高等専門学校会場					
種目	広島商船	—	弓削商船		
バレーボール(男子)	×	1	—	2 ○	
バレーボール(女子)	○	2	—	0 ×	
サッカー	×	2 (2)	—	2 (3) ○	
ラグビー	×	0	—	68 ○	
バドミントン	○	3	—	0 ×	
ソフトテニス	×	1	—	4 ○	
カッター	Aクルー	×	10'08	—	9'46 ○
	Bクルー	×	10'40	—	10'15 ○

弓削商船高等専門学校会場				
種目	広島商船	—	弓削商船	
硬式野球	×	0	—	6 ○
テニス	○	2	—	1 ×
陸上	○	119	—	77 ×
バスケットボール(男子)	×	46	—	65 ○
卓球	○	4	—	1 ×
剣道	○	3	—	1 ×
水泳	×	79	—	82 ○
柔道	×	1	—	4 ○

同窓会だより

○H29年同窓会総会開催の報告

本年は6月17日(土)17:00より同窓会総会が高知市内のホテル土佐御苑にて高知支部お世話で開催されました。

総会は本年度までの物故者の方への黙祷からはじまり、平成28年行事報告、決算報告等が行われました。また次年度開催地として徳島支部での開催が決定いたしました。

続いて行われた懇親会には30名の方の参加があり最後には校歌の大合唱となり閉会となりました。また翌日には恒例の同窓会ゴルフ大会が土佐カントリークラブで開催されました。

来年度の徳島にも多くのかたのご参加をおまちしております。



H29年同窓会総会開催

○横浜港カッターレース報告

5月21日横浜港で行われたカッターレースに弓削商船OBチームが4チーム今年は出場しました。そのうちの3艇が予選で1位となり、総合タイム的には一般レース160チーム中17位のチームが1チーム、シニアレース14チーム中では3位となる好成績でした。

同大会には今治から柏木会長も応援に駆け付けておられました。応援にこられた皆さんも弓削が1位でゴールするたびに放送席からの行われるアナウンスで弓削を連呼されるのに大満足されていたようでした。

他の4校の商船高専OBチームの参加艇に比べてもタイムはよかったようで参加、応援者ともこれも大満足されていたようでした。

来年も参加予定ですのでOBの皆さん、ぜひ横浜へ足をお運びください。



横浜港カッターレース

○お願い

本年の総会にて決定されたことを含めて報告と事務局からのお願いをいたします。

1. 本年同窓会名簿の発行を予定しております。名簿発行は2010年に行われ、久しく時間が経ちましたが、本年が弓削商船高専昇格50周年であり、その区切りとして名簿発行をする予定でおります。

OBの方のみへのご案内を8月お盆までに行う予定です。

この全船協会報が発行される頃には住所を把握できている会員の方には全員案内が届く予定です。

個人情報保護のための案内、掲載については注意して作成する予定ですが、ご協力とご了承よろしくをお願いいたします。

なお、同窓会に近年加入していただけていない方はもちろん掲載されませんのでこの点もご承知ご了承ください。

2. 同窓会HPへの記事投稿についてのお願い

同窓会ではHPの運営を行っておりますが、事務局ではなく委託をしております。HPに掲載のアドレスからOBの方からの記事投稿をお願いします。

投稿されたものは担当者、事務局がチェックを行って、書式の変更等もおこないます。OB以外からの投稿はいたしません。おかしな内容等ももちろん投稿いたしません。クラス会、支部会、カッターレース等、担当者の方の投稿をお願いします。

今後も同窓会の活動にご理解とご協力よろしくをお願いいたします。

(同窓会副会長事務局 E46 益崎真治)

海技教育機構

○ 乗船実習

4月1日から銀河丸及び青雲丸の2船に分かれて乗船した高専6年生は、操船・操機実習、主体当直、主機解放実習など充実した実習をやり遂げました。



航海計画実習



操船実習

7月1日からは、銀河丸及び航海科の一部が青雲丸の2船に分かれて乗船し、最後の3ヶ月実習を行っています。銀河丸は国内航海の訓練の後、8月5日(土)に横浜港新港5号岸壁からシンガポール港へ向けた遠洋航海に出航しました。



【写真③】計測実習

シンガポール港までの航海の途中には、太平洋戦争の激戦海域であり、先の大戦で犠牲となった方々の霊が眠る南シナ海を通航することから、(公財)日本殉職船員顕彰会と共同して、この航海途上の海域において今日の海洋国家日本の繁栄の礎となり戦没された多くの先輩船員への哀悼の意を表するとともに不戦の誓いを新たにするため「船上慰霊式」を行います。献花、献酒を行うとともに、ご遺族の皆様からお預かりしたお手紙(環境を考慮した無公害水溶性の紙を使用)を海上に手向ける予定です。

なお、6年生のうち約20名が外航及び内航社船実習へ進み、それぞれ実習に励んでいます。



整備実習



小艇実習

平成29年7月から12月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

○日本丸

7/21~8/20 大学(東京)1年、8/22~9/21 大学(神戸)
2年 7/21 大学(東京)1年乗船、7/23 東京発、7/29~

8/3 室蘭、8/7～12 伏木富山、8/19 神戸着、8/20 大学(東京)1年下船、8/22 大学(神戸)2年乗船、8/24 神戸発、8/30～9/4 佐世保、9/8～13 横浜、9/20 東京着、9/21 大学(神戸)2年下船

○海王丸

海上技術学校(乗船実習科)4年海上技術短期大学校(宮古)2年 7/1 乗船、7/4 東京発、7/15～18 神戸、7/21～25 宮古、7/28～8/1 御前崎、8/4～8 衣浦、8/14～18 門司、8/28～9/1 函館、9/8 東京着、9/10 下船

○大成丸

海上技術短期大学校(清水)2年 7/1 乗船、7/3 東京発、7/14～19 神戸、7/28～8/1 苫小牧、8/8～12 千葉、8/21～26 門司、8/31～9/4 鹿児島、9/8 東京着、9/10 下船

○銀河丸

大学(航海科)5年高等専門学校(航海科・機関科)6年 7/1 乗船、7/5 東京発、7/14～19 神戸、7/31～8/5 横浜、8/17～22 シンガポール、9/4～7 大阪、9/8 神戸着、9/10 下船

○青雲丸

高等専門学校(航海科)6年海技大学校(航海科、機関科)2年海技大学校専修(航海科、機関科)2年海上技術短期大学校(宮古)2年海上技術学校(乗船実習科)4年 7/21～8/20 大学(東京)1年、8/22～9/21 大学(神戸)2年 7/1 乗船、7/4 神戸発、7/14～18 神戸、



下船式(青雲丸)

7/20 神戸着、7/21 大学(東京)1年乗船、7/22 神

戸発、7/28～31 名古屋、8/10～14 釧路、8/18 神戸着、8/20 大学(東京)1年下船、8/22 大学(神戸)2年乗船、8/23 神戸発、8/31～9/4 小樽、9/9 横浜着、9/10 下船、9/14 横浜発、9/19 東京着、9/21 大学(神戸)2年下船

○ 第3回研究発表会の開催

9月28日(木)、新統合法人発足後、第3回となる研究発表会を公益財団法人帆船日本丸記念財団の日本丸訓練センター内 第1・2教室にて開催いたします。

入場料は無料、事前登録も不要ですので、参加をご希望の方は直接ご来場ください。詳細は当機構ホームページにてご確認ください。

○ 「練習船教育支援募金」へのご支援のお願い

「練習船教育支援募金」は、募金活動を通じて練習船教育に対する理解の促進を図ることを目的とし、平成29年度から一般公開等のイベント時に募金箱を設置して寄附を広く募っています。

頂いた寄附金は、練習船の設備や教材など、練習船における教育の充実に必要な資金として活用していきます。また、寄附金の具体的な使途や収支等について、ホームページ等で情報公開していきます。イベントへ参加された際には、ご協力よろしく申し上げます。

海技教育機構は、ホームページ及び Facebook 等の SNS を活用し、業務運営に関する情報、練習船における実習状況ならびに各寄港地でのイベント情報を発信しています。是非ご覧ください。

HP : <http://www.jmets.ac.jp>

企画調整部 企画課 岩崎裕行記

本部・支部だより

< 本 部 >

- 17.04.04 (火) 執行役員会 (岩田、赤嶺、及川、田島)
- 17.04.06 (木) JLL 難波氏来会移転打ち合わせ
- 17.04.06 (木) 練習帆船海王丸は晴海埠頭で行われた出航式 (岩田、及川、田島)
- 17.04.11 (火) 平成 28 年度事業報告決算書類等監査
- 17.04.11 (火) 平成 29 年度第 1 回企画財政委員会
- 17.04.12 (水) キャプラン (株) 佐々木氏来会打合
- 17.04.12 (水) リベラ (株) 地戸常務来会打合わせ
- 17.04.13 (木) NPO 法人 故郷の海を愛する会 川口会長来会
- 17.04.14 (金) 平成 29 年度第 1 回理事会
- 17.04.16 (日) 帆船日本丸国指定重要文化財答申記念イベント (岩田)
- 17.04.18 (火) みずほセミナー (及川)
- 17.04.19 (水) 日本殉職船員顕彰会催事委員会 (田島)
- 17.04.26 (水) ラメール会ゴルフコンペ (岩田)
- 17.04.27 (木) 地戸氏&キャプラン佐々木氏来会打合
- 17.05.08 (月) みずほ証券夏莉氏来会打ち合わせ
- 17.05.09 (火) リベラ (株) 社地戸常務&キャプラン (株) 打合 (及川、田島)
- 17.05.09 (火) 海洋会横浜支部春季会懇親会 (岩田)
- 17.05.10 (水) JLL 難波氏来会打合
- 17.05.10 (水) 海洋立国懇話会 (岩田)
- 17.05.11 (木) 第 47 回戦没・殉職船員追悼式 (観音崎) (岩田・及川・田島)
- 17.05.16 (火) 日本殉職船員顕彰会監査 (及川)
- 17.05.17 (水) 日本海事振興連盟講演会 (岩田)
- 17.05.19 (金) 船長協会懇親会 (岩田、及川、田島)
- 17.05.21 (日) 横浜港カッターレース (岩田)
- 17.05.22 (月) 富山高専門学校 賞雅寛而校長 着任挨拶来会
- 17.05.23 (火) 日本船舶機関士協会総会&懇親会 (岩田)
- 17.05.24 (水) 北海道厚岸翔洋高等学校 亀山喜明校長来会
- 17.05.30 (火) JLL 難波氏、榊氏来会打ち合せ
- 17.05.30 (火) (公益法人) 海技教育財団理事会 (岩田)
- 17.05.30 (火) (公益法人) 日本殉職船員顕彰会理事会 (岩田、及川)
- 17.05.31 (水) 平成 29 年度第 1 回HTW調査検討委員会 (及川)
- 17.06.01 (木) JLL 難波氏、榊氏来会见積関係打合
- 17.06.04 (日) 鳥羽商船同窓会総会 (岩田)
- 17.06.05 (月) JLL 難波氏、榊氏来会打ち合せ
- 17.06.06 (火) (一社) 船長協会新会長葛西氏、旧会長小島氏交代挨拶
- 17.06.07 (水) 平成 29 年度通常総会開催
本人出席 22 名、委任出席 363 名
- 17.06.08 (木) 第 10 回奨学生選考委員会 (田島)
- 17.06.08 (木) 島田さん求職相談来会打合せ
- 17.06.12 (月) JLL 難波氏来会打合せ
- 17.06.12 (月) キャプラン(株)佐々木氏来会打合せ
- 17.06.14 (水) SAILA 14 年度第 1 回理事会 (岩田)
- 17.06.15 (木) JLL 難波氏来会引越し関連打合
- 17.06.15 (木) 日新火災代理店 保険のしみず 清水氏来会打合せ
- 17.06.16 (金) 全船協広報大使峠さん本部にて日本海事新聞取材
- 17.06.20 (火) JLL(株)難波氏、野口氏、大久保氏、(株)高橋氏来会打ち合せ
- 17.06.20 (火) 日本海難防止協会総会 (岩田)
- 17.06.21 (水) リベラ株式会社地戸氏来会打合せ
- 17.06.23 (金) 吉岡社会保険労務士来会打合せ
- 17.06.23 (金) 水先人連合会懇親会 (及川)
- 17.06.23 (金) 船災防関東支部総会 (岩田)
- 17.06.26 (月) SEILA 総会 (岩田)
- 17.06.26 (月) 海技教育財団、保田さん来会
- 17.06.27 (火) 千代田三信ビル総会 (及川)
- 17.06.27 (火) 日本殉職船員顕彰会評議員会 (及川)
- 17.06.27 (火) 日本殉職船員顕彰会臨時理事会 (岩田、及川)
- 17.06.28 (水) NYKOB 会 (岩田)
- 17.06.28 (水) 平成 29 年度「海の月間」東京地区

実行委員会

- 17.06.30 (金) 第 124 回関東船員災害防止連絡会議
(岩田、田島)
- 17.06.30 (金) 富山高等専門学校 山本・成瀬氏来会
- 17.07.03 (月) 吉岡社会保険労務士来会打合せ
- 17.07.03 (月) 個人情報関連書類シュレッダー業者
へ引き渡し
- 17.07.04 (火) みずほセミナー (及川)
- 17.07.05 (水) J L L 宮口氏来会打合せ
- 17.07.05 (水) 帆船日本丸記念財団金近会長来会
- 17.07.07 (金) みずほ証券渡辺氏、転任 夏莉氏着
任挨拶 (次長)
- 17.07.07 (金) 航海学会表彰式 (会長)
- 17.07.07 (金) 本部事務所引越パッキン開始 (14:
00~)
- 17.07.08 (土) 本部事務所移転 (千代田三信ビル→
金子ビル)
- 17.07.09 (日) 金子ビル事務所整理作業
- 17.07.13 (木) キャプラン (株) 講演会 (及川)
- 17.07.13 (木) 三輪財政企画委員長来会打合せ
- 17.07.14 (金) 「海の日」前夜祭 (会長)
- 17.07.17 (祝) 日本丸天皇皇后行幸啓式典 (会長)
- 17.07.19 (水) J L L 宮口氏来会打合せ
- 17.07.20 (金) 大久保一郎遺作展 (会長)
- 17.07.24 (月) 富山商船同総会全支部長土屋氏来会
- 17.07.25 (水) 海の日海事功労者表彰式 (会長)
- 17.07.26 (水) 平成 29 年度第 1 回安全衛生管理実
務担当者連絡協議会 (田島)
- 17.07.29 (土) 合同進学ガイダンス (会長)
- 17.06.15 (木) 神戸海難防止研究会総会、懇親会
- 17.06.16 (金) FUJI XEROX 契約更新打合せ
- 17.06.23 (金) FUJI XEROX 契約更新 新機種設置
- 17.06.26 (月) 定例会 出席者 6 名
- 17.06.29 (木) 神戸港振興協会総会

<神戸支部>

- 17.04.24 (月) 定例会 出席者 6 名
- 17.05.10 (水) 合同進学ガイダンスパンフレット配
布 11 校
- 17.05.12 (金) 合同進学ガイダンスパンフレット配
布 10 校
- 17.05.19 (金) 写真展「波濤を超えて 神戸展 2017」
- 17.05.26 (金) 定例会 出席者 4 名神戸市みなと
総局事業計画説明会
- 17.06.09 (金) 大阪湾水先区水先人会会費徴収依頼
- 17.06.10 (土) 合同進学ガイダンス三宮研修センタ

—

協会本部事務所移転のご案内

事務局

かねてより検討を進めてまいりました協会本部事務所を下記に移転して7月10日より新事務所にて業務を開始することになりましたのでご案内申し上げます。

旧事務所の三信ビルから徒歩数分のところですので都内へお出かけの際には今まで同様、気軽にお立ち寄りください。最寄りの駅は半蔵門線神保町 A3、または A2 出口です。

今後とも倍旧のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

記

新住所 〒101-0005 東京都千代田区神田神保町 2-3-2 金子ビル 206号
TEL : 03-3230-2651
FAX : 03-3230-2653

*三信ビルの旧事務所から約 200m 徒歩 2 分の距離です。

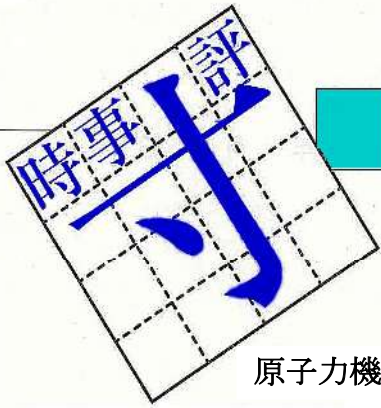


以上

会費納入者芳名帳 (敬称略) 物故者含

平成28年4月5日～7月31日現在

平成28年度分	7月分	木元 孝憲	鬼塚 夕季愛	本山 幹夫	堀本 俊幸
4月分	個人入金	宇佐見 航一	山田 健太	高岡 昭男	中森 晴雄
個人入金	菅沼 延之	山岡 宣之	周佐 智也	橋本 三郎	青山 保
佐野 隆史	(新規入会)	片淵 敏之	上澤 恒介	高濱 洋嘉	小山 健一
5月分	商船三井	沖原 邦彦	曾我部 博弥	山田 昌利	木村 照孝
個人入金	宇都宮 航平	山下 育孝	山中 亨子	新家谷 聡	宇高 保
吉見 慶	越田 亘	迫間 利紀人	山田 隆二	港 明広	井上 健二
遠藤 将実	杉野 智	寺西 尚平	古川 洋	河本 裕三	松本 弘明
	溝淵 真太郎	鈴木 直也	出貝 孝洋	後藤 清治	上池 静夫
平成29年度分	早柏 隆太	山本 真丈	勝木 輝明	田中 博昭	末吉 光郎
5月分	渡邊 真史	新田 真一	二川 英樹	丹後 和美	新規会員(内海)
個人入金	田川 寛大	萩原 栄二	西本 雅之	富永 信行	田中 秀二
鈴木 勝也	染矢 真行	橋口 靖生	早崎 弘泰	中尾 登一	新規会員
(新規入会)	梅田 尚宏	栗原 誠	須田 浩明	木下 健	7月1日付
6月分	阿部 誠	竹原 敏宏	秋元 光博	吉村 稔造	山友汽船在籍
個人入金	中尾 拓弥	滝浦 文隆	本田 修	村嶋 秀	下期より納金
本望 隆司	河本 優	綱島 毅	浦川 修	武藤 兼廣	三木 良祐
内海水先区 水先人会	松下 薫	朝日 健二	大阪湾水先区 水先人会	鹿渡 正次	片村 淳
	濱田 祐司	中塚 達也		森保 秀明	仁井岡 友康
野崎 正則	廣村 匡俊	枝次 真治	風折 雅美	森脇 千秋	大坪 鴻介
習田 誠至	森光 誠	藤井 仁	内海 真吾	有光 和生	山崎 真也
大阪湾水先区 水先人会	漁野 智洋	和田 雅人	川内 伯俊	藤中 満	出木 翔平
	佐々木 翔輝	山本 和之	香田 比呂志	齋藤 慶介	田島 大己
金山 聡	濱松 直也	田村 孝夫	池上 英二	西山 英二	河田 英樹
山下 公弘	酒井 勇樹	山口 智彦	齋藤 彰	小西 宏幸	織田 恭輔
平野 雄一	平木 恵介	藤川 政良	松榮 正允	立野 征生	物故者
荒木 新一	百合野 剛	浅田 幸一	終身会員	吾妻 文雄	2月
佐尾 治作	上井 博明	吉村 英昌	60,00円	山口 清	猿渡 國雄
中島 敏行	大宅 理志	福井 栄	鹿野 秀治	河合 謙太郎	3月
出光タンカー	金子 大輔	中川 敏昭	内海水先区水 先人会	二宮 眞澄	宮田 徹治郎
山本 一成	間島 崇夫	舘山 広利		倉本 修	
中坂 勝史	児玉 賢志	末次 徳明	佐々木重幸	中村 充美	
有馬 功人	伊賀 勇治	安達 勇治	島田 愛水	谷口 誠	
瀬戸口 義典	柴山 隆史	JXオーシャン	末岡 民行	松尾 和徳	
野間 虎三	福井 悟	中玉利 治	辻 武志	坂本 洋之助	
高野 清文	徳山 公彦	新田 浩貴	松林 信義	矢野 清	



原子力機構での内部被曝

今年の6月6日11時15分頃日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター燃料研究棟108号室で内部被曝事故が起きた。作業員5人が核燃料物質入りのステンレス容器を点検中5個目の容器の蓋を開けた時、核燃料物質を入れたポリエチレン容器を包む二重のビニール袋が急に膨らみ「パン」と大きな音を立てて破裂し煙が出た。煙の正体は、プルトニウム等の核燃料物質の粉末

と見られる。機構は当初、肺から出るエックス線の測定値から蓋を開けた作業員の内部被曝は事故後50年間で1万2千ミリ・シーベルトとの推計を発表。その後放射線医学総合研究所（放医研）で精査して、最大でも200～1000ミリ・シーベルトに下方修正された。他の4人はいずれも50ミリ・シーベルト未満だった。原因は調査中だが核燃料物質に添加された樹脂やポリ容器が放射線で分解されガスが発生したものと見られている。本機構は安全研究センターにて安全防災支援の研究をしており、今回の事故原因を含め自他ともに安全を追求し、対策を公表しなければ社会が認めないと思う。（2017年7月23日読売新聞参照） TO記

表紙写真 校内練習船「大島丸」 提供先 大島商船高等専門学校

4番目の表紙写真は、大島商船高等専門学校校内練習船「大島丸」です。

本船は、下関三菱造船所で建造され、平成5年（1997年）12月に竣工しました。

本船の要目は次の通りです。

航行区域：近海区域、総トン数：228トン、全長：41.00m、幅：7.6m、満載喫水：3.0m、

主機関：ヤンマーディーゼル4サイクル中速ディーゼル機関（1300psX370rpm）、速力：13.69ノット

航続距離：2,100海里、最大搭載人員：58人（乗組員9名・教員・学生49名）

編集後記

5校商船学科5年生の皆さん会報「全船協」を読んでみた感想は如何ですか？

就職及び進学が略決まったこの時期に今後の参考になる内容を提供しようと取組んで見ましたが、学生の立場から欲しい内容等については是非皆様の率直なご意見を聞いてみたく、時間の許すところで手紙またはEメールでもかまいませんので下記住所宛一報頂ければ幸いです。

ある学校の卒業生から電話が有り、全船協会員のメリットはなんですか？メリットが無いから退会しますとの内容でした。

本協会の活動理念である「船員教育の振興を図り、無料船員職業紹介及び海事技術者の人格技能の向上を支援する」公益活動が理解されていないと反省する本部事務局です。 TO記

全船協 No.135 夏季号

平成29年8月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会

◇編集兼発行人 及川 武司

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町二丁目3番地

金子ビル206号室

TEL 03-3230-2651

FAX 03-3230-2653

E-mail : honbu@zensenkyo.com

URL : <http://www.zensenkyo.com>

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 西本 哲明

本部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp> TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 齋藤 實

〒650-0042
神戸市中央区波止場町5番4号中突堤中央ビル4階
電話 (078) 332-7191 FAX (078) 391-7157
E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博史

副会長 漆 畑 忠雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所
〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 佐藤 元洋

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 内田 裕二

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

清水水先区水先人会

会長 中村 政一

副会長 檜 垣 漸

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリナターミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

海事業界メディアのパイオニア

日本海事新聞

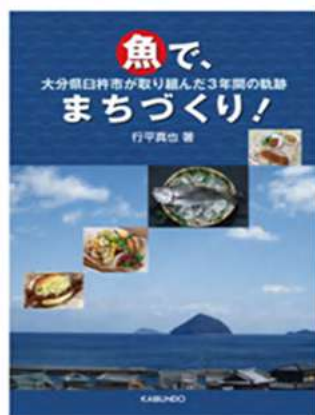
THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3222** まで

電子版サービス「マリナビ」は
www.marinavi.com へ

魚で、まちづくり!

大分県臼杵市が取り組んだ3年間の軌跡



著者が水産業普及指導員として関わり、自治体、地域の人たち、漁協関係者などと一体となって行った、カマガリやタチウオ、かぼすブリなど、臼杵市の特産魚を活かした様々な取り組みを紹介。

地方創生に取り組む関係者をはじめ、まちづくり、まちおこしに興味がある人の参考になる一冊。

行平真也 著

A5判 112頁 定価(本体1,500円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

http://www.kaibundo.jp/
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

宿泊設備(海員会館)のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



※写真はイメージです。

ナビオス横浜



3階 バーラウンジ

Seamen's Club

1階 レストラン
RESTAURANT
Ocean



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL : (045) 633-6000

- エスカル室蘭 TEL : (0143) 22-7009
- 川崎海員会館 TEL : (044) 233-5896
- エスカル横浜 TEL : (045) 681-2141
- エスカル神戸 TEL : (078) 341-0112

一般財団法人 日本船員厚生協会 (045)319-4506
ホームページ <http://www.jswa.or.jp>



海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば特別価格にてご婚礼・ご宴会・ご宿泊がご利用いただけます。

ようこそ美食のホテル マリナーズコート東京へ

ご婚礼・ご宴会・各種会合・ご宿泊

レインボーブリッジをはじめとする東京湾の素敵な景観とともに
ごゆっくりお過ごしいただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京 〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 ご予約 TEL:03-5560-2525

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人

船員保険会

会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6

SEMPOSビル 6・7階

電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597

URL <http://www.sempos.or.jp>

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の賃貸
船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

代表取締役 可児 紘之(鳥羽S39E)

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノヴァ横浜 丸番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916

E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp